

面 信 錄 類

2006年度

講 義 計 画

桃山学院大学

面

計

義

講

科 目 名			
西洋古典語－ギリシア語			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	山 川 偉 也

【講義概要・学習目標】

西洋文化を多少なりとも深く知りたいと思うなら、ギリシア文化を知ったほうがよい。ギリシア文化を知りたいと思うなら、ギリシア語を学んだほうがよい。ただし、ここでいうギリシア語とは、ヘロドトスやソフォクレス、プラトンやアリストテレスなどが使っていたいわゆる古典ギリシア語である。これを学ぶことによって新約聖書のギリシア語も現代ギリシア語も読むことができるようになるだろう。この授業は、その基礎を教えることを目的とする。

【授業計画】

テキストに即して漸進的に古典ギリシア語を学んでいく。漸進的に編集されている各課の練習問題をこつこつとこなしていくことが肝心である。

【成績評価の方法】

毎回の授業が小テストとしての意味をもつ。期末には試験をするが、それはこの小テストの積み重ねによって定まっていく評価を最終的に確定するためのものだと考えていただきたい。

【テキスト】

田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門－改訂版－』岩波全書

【参考文献】

古川晴風『ギリシャ語辞典』大学書林

科 目 名			
西洋古典語－ラテン語			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	ゴンザレス ダリオ Gonzales Dario

【講義概要・学習目標】

（学習目標）ラテン語の基礎的な知識の習得を目指す。
（講義概要）ヨーロッパの共通語的存在であったラテン語は、2千年余りの歳月により、今やフランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ルーマニア語、等に変身しているが、西洋文明や歴史文化の謎を解くための鍵になる言語である。又、英語の辞書を開けば、多くの語彙がラテン語から影響していることを知り、母なる言語の由縁が自然に理解できる。

講義は、ラテン語の基礎的な文法の理解と、現代ヨーロッパの諸言語の共通点を知るためにラテン語の歴史概要についても触れる。又、ラテン語に出来るだけ親しんでもらう為に視聴覚教材を活用するつもりである。

【授業計画】

（前期）

1. ラテン語の起源と歴史
2. 発音と読み方
3. 基礎的な文法事項

（後期）

1. ラテン語からの派生語
スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語 等
2. 身近なラテン語
音楽と雑誌
3. 簡単な日常会話

【成績評価の方法】

出席日数、レポートの総合評価とする。

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献】

松本悦治（著）『ラテン語入門』（駿河台出版社）

科 目 名			
西洋文化史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	岩 津 洋 二

【講義概要・学習目標】

今日のヨーロッパはEU（欧州連合）として統合が進みつつある。各国人意識を超えた「ヨーロッパ人」意識をもつ人々も増えているが、他方では自民族の文化的な伝統の独自性をまもろうとする運動も高まりを見せている。この講義は、大きく変貌しようとしているヨーロッパを全体的にとらえ、ヨーロッパ文化の現在を理解するための枠組みを提示することを目的とする。

したがって、建築や美術といった特定の文化的な領域の歴史をたどるような講義ではない。多くの日本人にとって憧れの的であったヨーロッパの、一般にはあまり注目されてこなかった側面に焦点を当てながら、その文化的特質について考察する。ヨーロッパの過去・現在・未来を見通す視座を提供するような講義にしたいと考えている。

【授業計画】

- I 西洋文化史の課題と射程
 - II 西洋文化の伝統と近代
 - III 西洋の統一性と多様性
 - IV 西洋の自己規定
 - V EUのもとでのヨーロッパ
- （第1回目の講義で、より詳細な講義計画を示す）

【成績評価の方法】

講義への参加度・提出物・テストによる総合的評価

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

【備考】

<02～05生>
共通自由科目として、LE・LI生対象外
LE・LI生は学科教育科目

科 目 名			
世界経済事情			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	モグベル ザファル Moghbel Zafar

【講義概要・学習目標】

世界経済の仕組みと今日のトピックスについて分かりやすく解説することがこの講義の基本的な趣旨である。受講生は、新聞の国際経済記事に興味をもって読み、自分なりの理解とオピニオンを持てるようになればこの講義の目的が果たされたと考える。

今日の世界経済では、もはや「対岸の火事」と悠長なことは言っていられない。すべての経済現象が同時進行でグローバルに展開し、国境を無視する形でボーダレスに迫ってくる。「GLOBAL」と「LOCAL」の垣根が益々ぼやけて行く中で、世界の経済状況に関する的確な情報と理解が問われていることは言うまでもない。このような見地に立つて、この講義では世界経済に関係したトピックスを取り上げて、日本国内の問題に関連づけながら説明する。主に、下のテーマの中からタイムリーなトピックスを選んで講義を進める。ただし、「世界経済入門」以降のテーマについては順不同とする。

【授業計画】

1. 世界経済入門
 - － 先進国・中進国・途上国とその他の分類の根拠の意義
 - － 世界経済のルールとその起源
 - － GATT・WTO体制と世界貿易
 - － IMFと国際金融制度
 - － 国際収支の仕組みと、日本の国際収支の動向
2. 経済グローバル化の光と陰
3. 地域主義と日本の対応：日本型FTAを巡って
4. 開発途上国の実態と戦略
5. ODAは世界を貧困から救えるか
6. 通貨危機の脅威
7. 石油とその他の一次産品を巡る問題
8. 各国経済事情

【成績評価の方法】

期末試験の結果を主とするが、講義中に課す数回のコメント提出をも参考とする。

【テキスト】

宮崎勇、丸茂明則（編）「世界経済読本」（東洋経済新報社）

テキスト以外に授業中に資料を頻繁に配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待する。

【備考】

<02～06生>
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

科 目 名			
世界市民－医と倫理と人権			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	永 水 裕 子

【講義概要・学習目標】

医療技術の発達により、以前は考えることも出来なかった治療による治癒が可能になった反面、例えば遷延性植物状態患者を長期間生かし続けることが果たして倫理的に妥当なのかというような倫理・人権にかかわる問題が出てくるに至った。この講義では、人が生まれてくる前から死ぬまでに直面するであろう問題について取り上げ、各場面において問題となる人権について考えていく。

【授業計画】

- ・生殖補助医療
- ・子どもの医療
- ・インフォームド・コンセント
- ・医療拒否
- ・尊厳死、安楽死
- ・脳死と臓器移植等

【成績評価の方法】

出席とレポート

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献】

講義の際に紹介する。

科 目 名			
世界市民－『映画の国』の市民たち 1			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	中 村 秀 之

【講義概要・学習目標】

「あらゆる映画は外国語である」と、ある映画批評家が言ったことがあります。映画の可能性は、民族や文化、特に国民国家の同一性に自足するものではない、むしろそれらの境界を積極的に越えてゆく世界性を持つという意味です。
この授業では、とりわけ政治的な理由で、実際に祖国を離れることを余儀なくされ、異郷の地で映画制作を行なった優れた作家たちの作品創造を、特に国民国家との関連において考察します。
中世のある神学者の次の言葉が本講義のモットーです。「自分の祖国を美しいと思うような人は依然として軟弱な初心者である。どのような土地でも自分の祖国であるような人はすでに強靱な人間と言える。しかし全世界が異郷であるような人こそが完璧な人間なのである」

【授業計画】

ナチス・ドイツを逃れてアメリカ合州国に亡命したヨーロッパの映画作家たちを取り上げます。
特に、ドイツのフリッツ・ラングとフランスのジャン・ルノワールという、サイレント期から1930年代にかけてそれぞれの国を代表した大監督の第二次大戦期の仕事を中心に、政治と映画の関係を論じます。
ちなみに、本講義のサブタイトルは、ジャン・ルノワールの言葉「シネマトグラフの市民」にもとづいています。

【成績評価の方法】

小テストとレポートによって評価します。
詳細は初回授業時に説明します。

【テキスト】

授業中にプリントを配布します。

【参考文献】

適宜、指示ないし紹介します。

【備考】

秋学期開講科目「世界市民－〈映画の国〉の市民たち 2」と本講義はそれぞれ独立の科目です。

科 目 名			
世界市民－『映画の国』の市民たち 2			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	中 村 秀 之

【講義概要・学習目標】

「あらゆる映画は外国語である」と、ある映画批評家が言ったことがあります。映画の可能性は、民族や文化、特に国民国家の同一性に自足するものではない、むしろそれらの境界を積極的に越えてゆく世界性を持つという意味です。

この授業では、とりわけ政治的な理由で、実際に祖国を離れることを余儀なくされ、異郷の地で映画制作を行なった優れた作家たちの作品創造を、特に国民国家との関連において考察します。中世のある神学者の次の言葉が本講義のモットーです。「自分の祖国を美しいと思うような人は依然として軟弱な初心者である。どのような土地でも自分の祖国であるような人はすでに強靱な人間と言える。しかし全世界が異郷であるような人こそが完璧な人間なのである」

【授業計画】

赤狩りのために映画業界を追われ、あるいはアメリカ合州国からヨーロッパに渡ることさえも余儀なくされたハリウッドの映画作家たち（特にジョゼフ・ローゼーとエイブラハム・ポロンスキー）、アルジェリア戦争に反対して徴兵を拒否し、フランスからドイツに逃れた（その後イタリアに渡った）ジャン＝マリー・ストローブとそのパートナー、ダニエル・ユイレ（通称ストローブ＝ユイレ）、かなり事情を異にするが、日本の大島渚、これらの作家の作品を通して戦後映画における芸術と政治の関係を考察します。

【成績評価の方法】

小テストとレポートによって評価します。
詳細は初回授業時に説明します。

【テキスト】

授業中にプリントを配布します。

【参考文献】

適宜、指示ないし紹介します。

【備考】

春学期開講科目「世界市民－〈映画の国〉の市民たち 1」と本講義はそれぞれ独立の科目です。

科 目 名			
世界市民－環境と経済について考える			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	藤 田 香

【講義概要・学習目標】

本講義は、「環境保全のための公共政策」をテーマとし、まずまず結びつきが強まる「環境」と「経済」の関係と、それに関連する諸制度についての解説を行う。

講義ではまず、地球環境問題などの概説を行い、対象とする環境問題に対する理解を深めることから始める。その後、環境問題の現状や公共政策の実施状況など、「環境」と「経済」とのかかわりについて講義を進める。

本講義は、環境政策、環境ビジネスに関心のある学生はもちろん、広く環境問題に関心のある学生にも興味を持てる内容となるう。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 地球環境問題
3. 地球温暖化問題への対応
4. 廃棄物問題への対応
5. 水問題への対応
6. 環境保全のための公共政策のあり方

【成績評価の方法】

レポート、期末試験等により、総合的に評価する予定である。
受講生の人数により、評価方法を若干変更する場合がある。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

必要に応じて、適宜紹介する。

科 目 名			
世界市民－環境問題へのアプローチ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	竹 歳 一 紀

【講義概要・学習目標】

現在、環境問題はそれ自体が問題であるというだけでなく、社会活動のさまざまな面に影響を与えている。日々の暮らしから企業経営に至るまで、環境問題をどう考えどのように対処するかということなしには、われわれの社会の持続的な発展は考えられないといってもよい。

この講義では、担当者の他、本学の専任教員が分担し、各々の専門分野が環境問題と関わる部分を中心に講義する。さまざまな角度から環境問題についての基本的な知識を学ぶことによって、今後さらに深く環境問題を考えるきっかけになることを期待する。と同時に、世界全体が取り組むべき環境問題について、世界市民の一人としてどう行動するのかを考える一助にってもらえればと思う。

【授業計画】

1. 環境問題の概要と特徴
2. 都市の発展と公害問題
3. 憲法と環境権
4. 地球温暖化問題と環境税
5. 生態系と生物多様性の保全
6. 廃棄物問題とリサイクル産業
7. 環境問題と企業経営
8. まとめ

【成績評価の方法】

学期末試験、およびレポートの提出により評価する。
詳細は初回に説明する。

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
世界市民－キリスト教Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	滝 澤 武 人

【講義概要・学習目標】

本学の「建学の精神」である「キリスト教」の立場から「世界市民」に光をあてることがこの講義の目標です。桃山学院のモットー「我に従え」の「我」とは、もちろん「イエス・キリスト」のことです。したがって、一人の人間として生きていたイエスの歴史的な姿を明らかにすることが課題となります。

どれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような状況の中で誰に向かってどんなニュアンスで語りかけられたものなのかを慎重に判断しなければなりません。イエスは最下層・最底辺の人間たちと共に生き、彼らの自由と愛のために闘い、十字架刑で処刑された人間です。

しかしながら、そのようなイエスの生き方は、「キリスト教」の枠をはるかに越えた普遍性と世界市民性を獲得しています。イエスの精神は、アッシジのフランシスコ、ザビエル、マザー・テレサらに受け継がれ、現代においても人権・福祉・ボランティア・教育などの問題に関心を有する世界中の多くの人々に、大きな感動と希望を与えつづけています。

なじみ難い科目かもしれませんが、真面目な学生諸君の熱心でねばり強い受講を期待しています。なお、「信仰」の有無はまったく関係ありません。

【授業計画】

全体的には、私の著書『人間イエス』の内容にそって講義します。すなわち、

- 序章 イエスをもとめて
- 1 おいたち
 - 2 被差別民衆
 - 3 ヒーリング（癒し）
 - 4 どんな男？
 - 5 どう生きる？
 - 6 教会は？
 - 7 終末
 - 8 死
- 終章 復活

【成績評価の方法】

試験（40点）・授業感想（30点）・レポート（30点）の予定。第1回目の授業時間に公表説明しますので、必ず出席してください。

【テキスト】

新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会）
滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）
福音書のテキストを自分自身でしっかりと「読む」ことが中心的課題ですので、毎時間必ず自分の聖書と教科書を持参することが必要です。

【参考文献】

- 荒井 献『イエスとその時代』（岩波新書）
田川建三『イエスという男』（作品社）
大貫 隆『イエスという経験』（岩波書店）

科 目 名			
世界市民ーグローバル化の中での生き方			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	片 岡 信 之

【講義概要・学習目標】

グローバル化は現代のキーワードの一つです。それは政治、経済、社会、文化等のあり方全般において、大きなインパクトを持って、私たちの前に立ち現れて来ています。
この講義では、このグローバル化時代において、本学の掲げる世界市民の育成という理念がどのような意味を持つのかについて考えてみたいと思います。

【授業計画】

次のような内容を考えています。

1. 20世紀末から21世紀初頭にかけて生じた世界の政治的・経済的・社会的構造変化とその意味
 2. 社会主義体制の崩壊、既存社会主義理論の行き詰まり
 3. 国際政治・経済・社会の構造変化
 4. 資本主義の変化
 5. 成熟社会の到来
 6. 企業社会の変化
 7. 国際化・地球環境保全・人間尊重・企業市民
 8. グローバル企業の構造と行動
 9. グローバル化する日本企業
 10. 異文化間コミュニケーション
 11. グローバル化と自律した個人
- これらの各項目について、簡単に講義した後、講義中のやりとりをし、また、かなりの回数のレポートを提出して貰います。

【成績評価の方法】

①期末テスト結果によるほか、②出席してしっかりノートを取っているかどうか、貴下論に参加したかどうか、③指示したレポートを提出しているかどうか、などによる総合評価とします。

概ね期末テスト結果6割、その他4割の比重で評価をします。

【テキスト】

必要な資料をプリントして配布します。

【参考文献】

必要に応じて指示します。

科 目 名			
世界市民ー在日華僑の歴史と現在			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	過 放

【講義概要・学習目標】

近年、世界的にグローバリゼーションが進み、物や情報だけでなく国境を超えた人の接触や移動も頻繁になってきている。今年度の講義では、日本社会の内なる国際化の視点から、身近な在日外国人ー在日中国人を中心に取り上げる。とくに中華街の歴史、中国人コミュニティの形成、華僑と日本人との国際結婚、新華僑の事情などといった華僑社会の変貌に注目する。なかでもとくに在日華僑の歴史と現在に対する考察を通して、日本在住の外国人と海外在住の日本人、そして本学の建学理念でもある「世界市民」についての理解を深めることを目標とする。

なお、授業の進行により、講義計画を一部変更することがある。

【授業計画】

- ・隣人ー華僑の生活空間
- ・華僑華人の歴史と中国および世界近代史
- ・在日華僑の歴史と日本の三大中華街
- ・在日中国人社会の変貌
- ・華僑の社会生活の変容
- ・グローバリゼーションと新来中国人
- ・中国人留学生と日本
- ・中国人研修生と日本
- ・世界華商大会と中国人ネットワーク
- ・在日外国人と日本社会

【成績評価の方法】

出席状況、小テストや練習、レポートと試験。詳細は最初の講義の際に説明する。

【テキスト】

授業時に適宜資料を配付する。

【参考文献】

- ・過放『在日華僑のアイデンティティの変容』東信堂
 - ・斯波義信『華僑』岩波書店
 - ・安井三吉『帝国日本と華僑』青木書店
 - ・山下清海編『華人社会がわかる本』明石書店
- その他授業時に適宜紹介をする。

科 目 名			
世界市民－社会福祉			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	瀧 澤 仁 唱

【講義概要・学習目標】 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解させる。 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。 4 社会福祉の専門性と倫理について理解させる。 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。 6 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。			
【授業計画】 1 現代社会と社会福祉 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 2 社会福祉対象の把握方法 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法 4 社会福祉援助活動における専門性と倫理 1) 専門性と専門職の内容 2) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方 3) 社会福祉援助活動と倫理 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容 6 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要 1) 社会福祉法・福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係 2) 社会福祉の実施体制 3) 社会福祉の財政と費用負担 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向			
【成績評価の方法】 論述式筆記試験			
【テキスト】 法改正が多く、適当な教科書が間にあわないので、別途指示します。			
【参考文献】 より詳しく調べたい方は、社会福祉小六法（2006年版）又は『社会福祉六法 2006（平成18）年版』（新日本法規） 必要に応じ一部条文はコピーしてわたしますので、特別に専門的な学習のために必要な方以外は購入する必要はありません。			

科 目 名			
世界市民－「十五年戦争」と現代			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	佐 賀 朝

【講義概要・学習目標】 本講義では、1931年の満州事変に始まり、1945年の日本の敗戦によって終わった「日中十五年戦争」についてテーマ別に概観し、あわせて、靖国神社をめぐる問題をはじめとして、この戦争を起源とする現代の諸問題についても考察したい。 日本が中国・朝鮮をはじめとするアジア諸国に多大な損害をあたえたこの戦争にかかわる史実を、史料にもとづいた歴史研究を基礎として認識・理解することは、今後、私たちがアジアの人びとと共に生きていこうとする上で不可欠である。現在、靖国神社や歴史教科書をめぐる問題では、史実を無視し、あるいは歪めた形の認識の上に立った「勇ましい」議論が横行しているが、過去の事実と誠実に向き合うことなくして人間の未来はない。 この講義では、現代の戦争と平和をめぐる問題ともかかわって様々な場で議論になっている日本の侵略と加害の問題について、史実にもとづいて基本的な知識を得ることを第一の目標とする。その上で、今後、日本やアジアがどのような道を歩むべきかについて、アジアの人びとと冷静で誠実な対話が可能となるための方向性を探っていきたい。			
【授業計画】 はじめに－「十五年戦争」とは何か 本論では、以下のテーマの中からいくつかを選定し、論じる予定。 満州事変と排外主義／「満州国」と華北分離工作／日中全面戦争と総動員体制／南京大虐殺／戦時下の市民生活／アジア・太平洋戦争への道／「大東亜共栄圏」の実態／朝鮮人・中国人強制連行と「従軍慰安婦」／沖縄戦／本土空襲と原爆投下／戦争責任と戦後補償問題／靖国神社問題 おわりに－日本国憲法の現代的意義			
【成績評価の方法】 出席、受講態度、小レポート、定期試験などにより総合的に評価する。			
【テキスト】 随時、プリント等を配付する。			
【参考文献】 江口圭一『十五年戦争小史〔新版〕』（青木書店、1991年） 藤原彰『新版 南京大虐殺』（岩波ブックレット、1988年） 藤原彰・今井清一編『十五年戦争史』1～4（青木書店、1988～89年） 以上のほか、授業のなかで随時、提示する。			

科 目 名			
世界市民－人権			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	安 井 哲 章

【講義概要・学習目標】

この講義では、人権（基本的人権）がどのような過程を経て獲得され、今日保障されるに至ったのかを解説して行きます。人権保障の歴史を概観した後、今日的な権利であるプライバシー権や被害者の権利について検討します。

【授業計画】

この講義を通じて、「個人の尊厳とは何か」を考えてもらいます。統治機構と人権保障の関係、法の支配、権力分立について検討した後、具体的な権利保障について検討します。

【成績評価の方法】

レポートと期末試験を総合して判断します。

【テキスト】

なし

【参考文献】

その都度指示します。

科 目 名			
世界市民－世界市民の原像			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	山 川 偉 也

【講義概要・学習目標】

「世界市民」という言葉ははっきりとした歴史的刻印をもった言葉である。それは、紀元前4世紀末にシノペのディオゲネスという男が最初に使った言葉「コスモポリータース」に由来する。その言葉がどのような歴史的背景や状況のなかで使われるようになったのか、ディオゲネスという男の生き様の解明を通じて考える。そしてその射程は現代にまで及ぶ広大なものであることを知ることにして。

【授業計画】

ディオゲネス・ラエルティオスの『ギリシア哲学者列伝』（岩波文庫）に拠りながら、ディオゲネスに関するさまざまな逸話に含まれている「世界市民」主義的思想を読み解いていく。そのなかで、現代に生きるわたしたちが直面しているさまざまな問題を考えるべきヒントを探っていく。

【成績評価の方法】

受講態度、レポート、試験等の結果を元にして、総合的に判定する。

【テキスト】

別になし。読書指導を行う。

【参考文献】

ディオゲネス・ラエルティオス・加来彰俊訳『ギリシア哲学者列伝』（中巻）（岩波文庫）

科 目 名			
世界市民－日本型マーケティングの革新性			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	鈴 木 幾多郎

【講義概要・学習目標】

国際マーケティングでは「現地化」か「標準化」か、が課題となります。「現地化」とは、輸出先の経済状況、伝統文化、価値観などを考慮した商品開発やマーケティングを展開しなければならない、とする考え方です。しかし、多様なニーズに対応するマーケティングはコストの増大を招くことになります。それに対して、「標準化」は、多様なニーズに共通する商品開発を行い「標準化」によるコスト減を目指したマーケティングを展開します。この講義では、戦後の日本企業の国際マーケティングの展開過程の特徴を分析し、「現地化」と「標準化」の問題を考える中で、「世界市民」の視点から日本型マーケティングの革新性を考えます。

【授業計画】

受講者は、少なくとも2国を選び、それぞれの経済構造、伝統文化、ライフスタイルなどの資料を収集・分析し、あわせてそれらの国々での日本企業のマーケティングの特徴を分析する。

【成績評価の方法】

上記の作業に基づくレポートと授業中の報告などを参考に評価する。

【テキスト】

講義中に資料を配布する。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

科 目 名			
世界市民－日本という「場所」から考える			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	深 澤 徹

【講義概要・学習目標】

「市民社会」の歴史文化的伝統を徹底的に欠きながら、明治になってあわててそれを外部から輸入し、そこから新たな近代社会を立ち上げてきた私たちにとって、ついには借り物でしかない「市民」という自意識をどのようにして身につけ、それを己のものにしていったらいいのであろうか。「世界の市民」が、日本の社会に、そして日本人の自意識にどのように「受け入れられ」、あるいは「受け入れられなかったのか」を考えつつ、その体験を現在にどう生かしていけるのかを、受講生と共に考えながら講義を進めて行きたいと思う。これといった正解は無いのだが、「武士道」にそのヒントを求めていきたい。

【授業計画】

1. 桃山学院大学の「世界の市民」という建学の理念について考える。
2. 「世界の市民」という概念の近代日本への導入過程を考える。
3. 「世界の市民」の対応物を日本の文化伝統の中に探る。
4. 日本の文化伝統に立脚しながら「世界の市民」として行動する方法を考える。

【成績評価の方法】

毎回出席を取るなのでその出席状況と、最終日に行う予定の教場試験で、総合的に評価する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献】

教場で指示する。

科 目 名			
世界市民－日本文学の中の仏教			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	梅 山 秀 幸
02	秋学期	2単位	

【講義概要・学習目標】

世界宗教である仏教は中国大陸、朝鮮半島を経て、日本に渡来する。仏教が日本人の心性に与えた影響を、文学を通して考えてみたい。特に、極楽と地獄の観念が古くからの日本の他界観念とどう融合して、日本人のモラルを形成していったかを考えたい。

【授業計画】

- 1、石器時代の宗教
- 2、黄泉の国、ニライカナイ
- 3、極楽と地獄
- 4、仏教説話集
- 5、ものがたりと仏教
- 6、能と仏教

【成績評価の方法】

出席状況とレポートによる

【参考文献】

授業時に述べる

科 目 名			
世界市民－滅びゆく生物を守る			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	巖 圭 介

【講義概要・学習目標】

人間は常に自然の恵みにより生かされてきた。しかし人間が節度を忘れてひたすら効率的に自然から収奪するようになった結果、多くの生物がすでに滅び、また今滅びようとしている。現在、地球始まって以来最大のペースで生物が絶滅しつつあるといわれている。守るべき自然、守るべき生物はどこにいるのか、なにが彼らを滅ぼそうとしているのか、そして世界の市民として私たちは何をすればいいのか。

この講義では、生物保全の基礎について事例をふまえながら紹介していく。この地球に存在する多くの生物が人間にとってどのような意味を持ち、なぜ私たちは彼らを守らねばならないのかということを考える機会としてもらいたい。

【授業計画】

おおむね次のようなテーマに沿って進行する。

- ・人間と自然の関わり
- ・なぜ生物を守らねばならないのか
- ・原生林の保護
- ・里山の成立と破壊の歴史
- ・ウェットランドー陸と水が出会う場所ー
- ・侵入生物の脅威
- ・生物の有効利用と乱獲
- ・絶滅危惧種の把握と保護
- ・滅びゆく生物が直面する遺伝的問題
- ・生態系の復元

【成績評価の方法】

毎回の講義に対するコメント、2回の短いレポート、および期末試験により判定する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

鷺谷いづみ、矢原徹一『保全生態学入門』文一総合出版 1996年
 田辺和祐『生物と環境ー生物と水土のシステムー』東京教学社 1995年
 鷺谷いづみ『サクラソウの目』地人書館 1998年
 石井実ほか『里山の自然をまもる』築地書館 1993年
 加藤真『日本の渚』岩波新書 1999年
 川道美枝子ほか『移入・外来・侵入種』築地書館 2001年
 鷺谷いづみ『生態系をよみがえらせる』NHKブックス 2001年

科 目 名			
世界市民ーリトル東京とチャイナタウン			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	串 田 久 治
02	秋学期	2単位	

【講義概要・学習目標】

世界各国にあるChinatownと、まれにあるLittle Tokyo。毎年これほど多くの日本人が海外に出るのに、そこに定住する日本人は極めて少ない。なぜ日本人の海外定住者は少ないのでしょうか？

世界のチャイナタウンとリトル東京を調べ、「タウン」と「リトル」に象徴されるところを考えながら、「世界市民」とは何かの答えを模索する。

【授業計画】

本講義は書物から学ぶものではありません。調査・発表に当たって各グループのメンバー全員が協力しあって問題を発掘すること、その問題について議論するの中で他者の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することを身につけることが目的です。小グループに分かれて調査・発表し、発表についてディスカッションをし、そのつどレポートを作成し提出します。従ってグループでの活動に積極的であることはもちろん、毎回出席しなければ意味ありません。

【成績評価の方法】

出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価します。積極的でない人、よく休む人は、グループの活動に支障を来しますので、学期途中でも遠慮していただくことがあります。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

科 目 名			
世界の英語			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	野 原 康 弘

【講義概要・学習目標】

最近、グローバル化が進行する中、英語は世界中最も広く通用する国際言語の地位を獲得している。インドのように、英語を準公用語にしているところもある。英語の国際化は、一方では英語の多様化を招き、いろいろな英語が登場している。一昔前までは、主要な英語はイギリス英語とアメリカ英語で、その違いだけが注目されていた。しかし今では、イングランドの周辺だけでも、スコットランド英語、ウェールズ英語、アイルランド英語がある。イングランドから遠く離れた地域にも、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、南アフリカ英語、インド英語、カナダ英語、シンガポール英語などが存在し、無視するわけにはいかなくなってきている。変わったところでは、「商取引」のために生じた簡略されたビジン英語。アフリカの「シエラレオネ」のフリータウンでは、そのビジン英語を母語とするクリオール語さえ誕生している。一つだった英語が、それぞれの国や地域で、それぞれの歴史と文化の中で、その地域の言語と融合し、独自の発達を遂げていったわけである。この講義では、それぞれの英語の歴史的な背景と特徴を解説していくことにする。

【授業計画】

1. 英語の歴史
 2. イギリス英語
 3. スコットランド英語とウェールズ英語
 4. アイルランド英語
 5. オーストラリア英語とニュージーランド英語
 6. 南アフリカ英語
 7. アジアの英語
 8. カナダ英語
 9. アメリカ英語
 10. ビジン英語
- (講義の順番は変更する場合があります)

【成績評価の方法】

試験を重視、出席も考慮する

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献】

授業中に指示する

【備考】

英語の語彙がかなり登場するので、英語が好きであることは当然である。講義開始までにイギリスの歴史を自習しておくこと（高校の世界史の教科書などでも良い）。

科 目 名			
専門資料論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	松 永 俊 男

【講義概要・学習目標】

学術文献と一般資料との違い、分野による学術文献の特徴、学術文献の利用方法などについて解説する。

【授業計画】

1. 学術文献とはなにか
2. 学術文献の種類と特徴
3. 学術雑誌の歴史
4. 学術における不正
5. 二次資料
6. 学術文献のデジタル化
7. 百科辞典

【成績評価の方法】

平常点と最終テストとを総合して評価する。

科 目 名			
総合人間学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	寺 木 伸 明

【講義概要・学習目標】

20世紀に多くの学問で専門分野の細分化が起き、さまざまな「学」が生まれた。しかし、個別の「学」では、今日の人類が直面する地球環境、人口、教育、人権などの諸問題に十分答えることができない。21世紀には、学際的な人間に関する、新たな総合学が必要とされる。

この講義は上述のような学問的要請に応じて、複数の講師によって行われる「インテグレーション」科目として実施される。自然科学と人文・社会科学の最新の研究成果を踏まえながら、新たな学際的総合教育をめざす。ここで人間とは、生物種ヒトとその文化の双方を含み、現代文明のもとでさまざまな問題に直面しながら、科学・技術、法律、教育、芸術、宗教などを生み出している主体ととらえる。文化の多様性・相対性を認めつつも、異なる文化を持つ人々の間での共通性を解明することによって、ヒューマニズムとは何かという人間学の目標にも迫っていきたい。

【授業計画】

複数の講師によって実施されるインテグレーション科目で、内容は次のとおりである。

1. ヒト学入門：自然におけるヒトの位置、ヒトの行動の進化、ヒトの地理的多様性の理解
 2. 異文化理解：東西文化の特徴と地理的条件、民族性、文化摩擦と国際交流の理解
 3. 人間思想史：東西の哲人が語った人間像の理解と、人間理解の哲学的アプローチの理解
 4. 国際人権論：アイヌをはじめとする世界の少数民族と先住民の文化と歴史・現状、インド・日本などにおける身分差別の歴史と現状、人権に関わる国連の活動と国際法の理解
 5. 文学とヒューマニズム：愛・孤独・不安・挫折・苦悩等とヒューマニズム文学作品のもつ人間性へのメッセージの理解
- なお、私語は厳禁。私語した場合、直ちに退室を命じる。また、15分たってからの入室は、正当な理由がないかぎり、認めない。

【成績評価の方法】

毎回、出席を取り、カードに講義の感想・意見・疑問などを書いて提出してもらう。学年末試験の点数を基本として、出席点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

尾本恵市『ヒトはいかにして生まれたか』岩波書店、1998年

【備考】

インテグレーション科目

<02～05生>

共通自由科目として、LE・LI生対象外

LE・LI生は学科教育科目

科 目 名			
卒業論文 [SW]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	＜春＞石 田 易 司 ＜秋＞黒 田 隆 之 ＜秋＞郭 麗 月 ＜春＞栄 セツコ
02	通期	4単位	
03	通期	4単位	伊 藤 高 章
04	通期	4単位	小 西 加保留
05	通期	4単位	松 端 克 文
07	通期	4単位	安 原 佳 子

【講義概要・学習目標】

3 回生の演習で積み上げてきた学習を深め、卒業論文という形にして書き上げることを目的とする。そのため、この講義では、各自、研究したいテーマを設定し、それに基づき、参考文献の紹介および探し方、論文の書き方等に関して、指導する。

基本的には、個人指導あるいはグループ指導とする。

【授業計画】

春学期：テーマの設定・参考文献の収集・論文の組み立てをし、中間発表会を行う。
秋学期：卒業論文を完成させる。

【成績評価の方法】

卒業論文の内容で評価する。

【テキスト】

適宜紹介

【参考文献】

適宜紹介

科 目 名			
卒業論文 [SW]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4単位	松 本 眞 一

【講義概要・学習目標】

児童福祉関係領域をテーマとする卒業論文作成希望者を受け入れる。児童福祉分野には、養護問題、虐待問題、少子化問題、保育問題、教育問題、非行問題、年少労働問題、遊び場問題、心身障害問題、健康問題など種々の福祉課題が包摂されるが、それらのうち、障害児問題及び健康問題を除く上記の児童福祉課題に関する卒業論文作成の過程を通じて児童福祉の専門的理解を深めることを目標とする。

【授業計画】

〔春学期〕

この期には、上記のようなさまざまな児童福祉課題の中から受講生自身が興味を抱く課題に関する文献を図書館等から収集して、それらを読み咀嚼し、レポート（1000字程度）を作成する。これらの作業を繰り返すことによって、卒業論文のテーマと概要をこの期間中に構想できるようにする。受講生は、2～3週に1回レポートの報告が義務づけられる。

〔秋学期〕

「章立て」（卒論の骨子となる章及び節）の肉付け作業（論文執筆作業）が開始されると同時に、担当者から受講生に対して個別的・集団的指導が行われる。

【成績評価の方法】

提出された卒業論文、レポート数等で総合評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

科 目 名			
村落社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	清 水 由 文

【講義概要・学習目標】

今年度本講義は副題として「農と食の社会学」として講義します。最近BSE問題を代表としていろいろな食問題が起こっています。それと日本の食料自給率（カロリー計算）40%問題や食のグローバル化など大きく関連しています。そこでそれらの問題の理解のためには生産者である「農」と消費者の「食」の2つの側面から理解する必要があります。したがってまず戦後日本の農業、農村はどのように変化してきたのか、つぎにわれわれ消費者の側では食生活がどのように変化してきたのかを検討するという2段階で本年度の講義を進めていきたいと思っています。

【授業計画】

（1）日本の農業・農村問題

1. 戦前の日本農業・農村社会
2. 戦後農地改革による日本農業・農村の変化
3. 1960年以降の高度成長経済と農業基本法農政
4. 日本の農業・農村の現状
5. 環境からみた日本農業・農村
6. 過疎化問題と農業・農村の活性化
7. グリーン・ツーリズムによる活性化
8. 食料自給率問題

（2）消費者側の食の変化

1. 食へのアプローチの仕方
2. 食の近代化―食生活の成熟とフードシステム
3. 家族の変化と食生活
4. 外食産業とファーストフード化
5. マクドナルド化
6. 食の外部化―内食、中食、外食の視点―
7. スローフード運動と食
8. 食の安全性について

以上の講義内容に対応した視聴覚教材をとおして視覚的に理解しやすいようにしていきたい。

【成績評価の方法】

定期試験（80%）と授業中の小レポート（20%）による総合評価

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献】

講義中に適宜提示する。

科 目 名			
大学生活入門セミナー			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	野 田 俊 範

【講義概要・学習目標】

このクラスは、編・転入学生諸君を対象として開講されているものです。本セミナーでは、学生諸君が桃山学院大学経営学部を理解し、これに慣れ親しむことを目標とします。具体的には、大学の諸施設を有効に活用できるようになること、および、講義やゼミで経営学に関する専門的な学習や研究をおこなうための、基礎的な力を身につけること、を、主要な目標とします。本セミナーでは、全体として、報告とそれに対する質疑・応答や討論を中心として、すすめていくことになります。

（学習目標）

1. 経営学部生にとって必要な基礎的な学習テクニック（レポートやレジュメの作成、プレゼンテーションの仕方や技法など）を修得する。
2. 経営学に関する文献を熟読し、その要約を作成するとともに、経営学に関する基礎的な知識を身につける。
3. テキストをもとにして調べてきたことを報告し、これに対する質疑応答や討論を行う。

*全回出席を原則とします。

【授業計画】

- 第1回 演習の概略説明
- 第2回 図書館オリエンテーション
- 第3回 情報センターオリエンテーション
- 第4回 専門的な文献の要約（1）
- 第5回 専門的な文献の要約（2）
- 第6回 専門的な文献の要約（3）
- 第7回 プレゼンテーションについて
- 第8回 報告と討論（1）
- 第9回 報告と討論（2）
- 第10回 報告と討論（3）
- 第11回 報告と討論（4）
- 第12回 報告と討論（5）／本演習のまとめ

*授業の順序を入れ替える場合があります。

また、演習生との相談により内容を変更する場合があります。

【成績評価の方法】

出席状況、報告や質疑などを通じての演習への参加状況、レポート等の提出やその内容などにより、総合的に評価します。

【テキスト】

渡辺峻／角野信夫／伊藤健市編著『やさしく学ぶマネジメントの学説と思想』ミネルヴァ書房、2003年。

【参考文献】

大野晋『日本語練習帳』岩波新書、1999年。
小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2002年。
その他、必要に応じ適宜指示します。

【備考】

編入生用

科 目 名			
大学生生活入門セミナー			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	野 原 康 弘

【講義概要・学習目標】
「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達との輪を作ることなどを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

<学習目標>

- 1 講義におけるノートの取り方を学ぶ
- 2 レジュメの作り方を学ぶ
- 3 発表・報告・討論の仕方を学ぶ

*全回出席を原則とする。

【授業計画】
(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 図書館 オリエンテーション
- 第3回 情報センター オリエンテーション
- 第4回 ノートの作り方 (ミニ講義) (1)
- 第5回 ノートの作り方 (ミニ講義) (2)
- 第6回 ノートの作り方 (ミニ講義) (3)
- 第7回 大学生活及び入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方 (文献講読と発表) (1)
- 第9回 報告の仕方 (文献講読と発表) (2)
- 第10回 討論 (1)
- 第11回 討論 (2)
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明

*授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】
レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

【テキスト】
適宜指示します

【参考文献】
適宜指示します

【備考】
留学生対象クラス

科 目 名			
大学生生活入門セミナー			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期	2単位	野 田 俊 範

【講義概要・学習目標】
「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達との輪を作ることなどを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

<学習目標>

- 1 講義におけるノートの取り方を学ぶ
- 2 レジュメの作り方を学ぶ
- 3 発表・報告・討論の仕方を学ぶ

*全回出席を原則とする。

【授業計画】
(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 図書館 オリエンテーション
- 第3回 情報センター オリエンテーション
- 第4回 ノートの作り方 (ミニ講義) (1)
- 第5回 ノートの作り方 (ミニ講義) (2)
- 第6回 ノートの作り方 (ミニ講義) (3)
- 第7回 大学生活及び入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方 (文献講読と発表) (1)
- 第9回 報告の仕方 (文献講読と発表) (2)
- 第10回 討論 (1)
- 第11回 討論 (2)
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明

*授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】
レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

【テキスト】
適宜指示します

【参考文献】
適宜指示します

【備考】
AO生対象クラス

科 目 名			
大学生活入門セミナー			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	春学期	2単位	今 木 秀 和
05	春学期	2単位	片 岡 信 之
06	春学期	2単位	坂 手 恭 介
07	春学期	2単位	坂 手 恭 介
08	春学期	2単位	鈴 木 幾 多 郎
09	春学期	2単位	鈴 木 幾 多 郎
10	春学期	2単位	武 田 久 義
11	春学期	2単位	谷 武 幸
12	春学期	2単位	谷 武 幸
13	春学期	2単位	谷 口 照 三
14	春学期	2単位	谷 口 照 三
15	春学期	2単位	中 村 恒 彦
17	春学期	2単位	中 村 恒 彦
18	春学期	2単位	正 亀 芳 造

【講義概要・学習目標】

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達との輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

<学習目標>

- 1 講義におけるノートの取り方を学ぶ
- 2 レジュメの作り方を学ぶ
- 3 発表・報告・討論の仕方を学ぶ

*全回出席を原則とする。

【授業計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 図書館 オリエンテーション
- 第3回 情報センター オリエンテーション
- 第4回 ノートの作り方 (ミニ講義) (1)
- 第5回 ノートの作り方 (ミニ講義) (2)
- 第6回 ノートの作り方 (ミニ講義) (3)
- 第7回 大学生活及び入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方 (文献講読と発表) (1)
- 第9回 報告の仕方 (文献講読と発表) (2)
- 第10回 討論 (1)
- 第11回 討論 (2)
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明

*授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

【テキスト】

適宜指示します

【参考文献】

適宜指示します

科 目 名			
地域経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	芝 村 篤 樹

【講義概要・学習目標】

日本近代都市の形成と展開について、戦後の高度経済成長期までたどる。そして、現代都市の諸問題を考えたい。その際に、主な対象となるのは大阪である。講義室を友人の交流・団欒の場と心得る諸君の入室を厳禁する。つまり、私語は禁止である。

【授業計画】

1. 日本近代都市の形成
2. 1920・30年代の都市
3. 都市における戦前と戦後
4. 高度経済成長期の都市
5. 現代都市の課題

【成績評価の方法】

講義時の小レポート、期末試験。

【テキスト】

芝村 篤樹 著『都市の近代・大阪の20世紀』(思文閣出版)

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、E生対象外

E生は学科教育科目

科 目 名			
地域研究Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	捧 堅 二

【講義概要・学習目標】

今日の世界をアメリカとイギリスを中心に考察する。

【授業計画】

- 1 大国・超大国・アメリカ
- 2 覇権交代史観
- 3 アメリカ民主主義
- 4 フクヤマの理論
- 5 イギリスとアメリカ
- 6 ビーブルと共和制
- 7 保守党と労働党
- 8 共和党と民主党
- 9 朝鮮戦争
- 11 キューバ危機
- 12 ケネディ暗殺事件
- 13 パレスチナ問題とアメリカ
- 14 イラク戦争と米英
- 15 NP0とアソシエーション

その他

(ただし、順番の変更があるかも知れない)

【成績評価の方法】

- ①短いレポート
- ②定期試験（秋学期末のみ）

【テキスト】

使用しない

（受講者は、板書内容にとどまらず、詳しくノートを取ること）

【参考文献】

高瀬淳一『まるとナビゲーション 世界の政治日本の政治』実務教育出版
池上彰『そうだったか！現代史』ホーム社
池上彰『そうだったか！アメリカ』ホーム社
森嶋通夫『政治家の条件』岩波新書
フランシス・フクヤマ『歴史の終わり』上下、三笠書房
サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社
ファリード・ザカリア『民主主義の将来』阪急コミュニケーションズ
ナタン・シャランスキー『なぜ、民主主義を世界に広げるのか』ダイヤモンド社
松本清張『日本の黒い霧』上下、文春文庫
萩原遼『朝鮮戦争』文春文庫
稲垣武『「悪魔祓い」の戦後史』文春文庫
秦郁彦『昭和史の謎を追う』上・下、文春文庫
岸田秀『一神教VS多神教』新評論

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、J生対象外

J生は学科教育科目

科 目 名			
地域研究Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	鈴 木 博 信

【講義概要・学習目標】

○ソ連は第2次大戦後、東欧諸国民およそ1億人を支配下におさめ、これを「外帝国」とする「新しい帝国」へと膨張したが（「新しいソビエト帝国」＝「内帝国（つまり、ソ連本体）」＋「外帝国」）、皮肉にも膨張の頂点がとりも直さずソビエト帝国衰亡のはじまりでもあった。講義の基本テーマは「ソビエト帝国衰亡史」である。

○他党は一切みとめないソ連共産党がソ連という「国家を所有」し、統治の道具として使う「一党独裁制」；企業はすべて国有とし、企業間競争も市場原理も一切排除したうえで中央の計画当局が作成した生産計画・生産命令をひたすら遵守させる「命令経済」；—この「一党独裁制」と「命令経済」がワン・セットになった仕組みでうごくソビエト帝国が、わずかに半年足らずで「外帝国」を手放さざるをえなくなり、さらにはそのはね返りでソ連本体も瓦解したそれはなぜか？

【授業計画】

〔Ⅰ〕ソ連の東欧支配はどのようにして成立したか？

0. ソビエト帝国理解のための用語と概念
1. 「新帝国」の誕生—ヤルタからチェコスロヴァキア・クーデタまで（1945～48）
2. 誕生まもない「新帝国」にはやくも亀裂—「ベオグラード1948」

〔Ⅱ〕東欧諸民族はソ連の支配にたいしてどのように抵抗し、自立をもとめたか？

3. 「ワルシャワの10月」「ブタペストの10～11月」（1956）—「雪解け」は再凍結
4. 「プラハの春」から「戦車の夏」—チェコスロヴァキアの「先駆的」ペレストロイカも圧殺（1968）

〔Ⅲ〕東欧諸国はどのようにしてソ連の支配から離脱したか？

5. 「グダニスク1980」—「古典的」労働者革命は先進資本主義世界ではなく社会主義国で起きた！
6. 「ゴルバチョフ・ファクター」と東欧
7. 「ベルリン1989」—「外帝国」、クレムリンの支配から脱却す

〔Ⅳ〕ソ連本体はどうなったか？—そして、ロシアの今は？

8. 「モスクワ1991」—「内帝国」も崩壊！
9. ゴルバチョフからエリツィンへ
10. プーチンの時代—「ロシア政治史」1000年のサイクル

【成績評価の方法】

○期末の大レポート（または試験）

○必要に応じて随時、小レポート

【テキスト】

特定せず、必要に応じて指示します。

【参考文献】

ロシアについては、『新版ロシアを知る事典』（平凡社）、『情報総覧 現代のロシア』（大空社）、歴史地図はマーチン・ギルバート『ロシア歴史地図』（東洋書林）、横手慎二『現代ロシア政治入門』（慶応大学出版会）—巻末にすぐれた文献案内あり—、アダム・ウラム（鈴木博信訳）『膨張と共存—ソヴエト外交史』（サイマル出版会）、マーシャル・ゴルドマン（鈴木博信訳）『強奪されたロシア経済』（NHK出版）；東欧については『東欧を知る事典』（平凡社）、南塚信吾編『東欧の民族と文化』（彩流社）、『社会主義の20世紀』全6巻（NHK出版）、三浦元博ら『東欧革命』（岩波新書）など多数

科 目 名			
地域福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	松 端 克 文

【講義概要・学習目標】

1. 地域福祉の理念と内容について理解させる
2. 地域福祉計画の意義と内容、地域福祉の推進方法について理解させる
3. 地域福祉の現状について理解させる

【授業計画】

1. 現代社会におけるコミュニティと地域福祉
2. 現代社会と地域福祉
 - (1) 地域福祉理念の発達
 - (2) 地域福祉の概念と範囲
 - (3) 地域福祉の役割と意義
3. 地域福祉の構成
4. 地域福祉の推進方法
 - (1) 推進の基本的な考え方
 - (2) 地域福祉計画の意義と内容
 - (3) 市町村と社会福祉協議会の役割と住民参加の意義
 - (4) サービス提供組織とその運営方法
 - (5) 人材の構成およびその動員方法
 - (6) 財源の構成とその調達方法
 - (7) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職およびその連帯のあり方
5. 地域福祉の現状と課題
 - (1) 実践を中心とした現状と課題
 - (2) 地域福祉をめぐる政策的な現況と課題
 - (3) 事例検討

【成績評価の方法】

出席と試験で総合に評価する。

【テキスト】

上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房、2004。

【参考文献】

講義中に紹介する。

科 目 名			
地域文化概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	大 野 裕 之

【講義概要・学習目標】

本講義では、主に映画と演劇の分析を通じて、それぞれの地域における文化について研究する。同じテーマを扱っている映画でも、地域によってどのように描き方が違うか。英国演劇出身のチャップリンがどのようにしてアメリカの映画におけるスターになったか。日本映画に固有の表現とは何か、などについて論じる。後期は、演劇作品、とりわけミュージカルについて論じる。受講者の積極的な参加を期待する。

【授業計画】

- 1 イントロダクション
- 2～5 チャップリンの映画に見る地域性
- 6～7 アメリカ映画に見る地域文化
- 8～10 イタリア映画の戦後
- 11～12 フランス映画に見る近代
- 13～15 李香蘭／山口淑子主演映画に見る日本の戦争
- 16～19 ミュージカルとはジャズである
- 20～23 イギリスのミュージカル
- 24～27 歌舞伎・文楽～日本の演劇表現
- 28～30 まとめ

【成績評価の方法】

課題図書を読んだり、実際に演劇や映画を見てもらった上でのレポート。年2回程度。

【テキスト】

四方田犬彦・浅田彰著『パゾリーニ・ルネサンス』（とても便利出版部）

【参考文献】

講義中に指定。

科 目 名			
地誌			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 05	春学期 秋学期	2単位 2単位	佐々木 育 子

【講義概要・学習目標】

21世紀を生きる私達は、好むと好まざるとにかかわらず、世界の諸地域と関わりをもち、その動きに影響される。

諸地域は如何にして形成され、そこに住む人々は何を求め、どのように生活しているかを、この講義では見ていきたい。

(付) 教員・公務員等の試験を受ける人のために、授業の一部で過去問を扱う時間を入れる予定。

【授業計画】

- 1 はじめに
- 2 朝鮮半島
- 3 アメリカ合衆国
- 4 EU諸国
- 5 ロシアと旧ソ連邦諸国
- 6 西アジア－パレスチナ・イラクを中心に－
- 7 アフリカの国々
- 8 オーストラリア
- 9 ラテンアメリカ－ブラジルを中心に－
- 10 ASEAN諸国
- 11 中国
- 12 日本
- 13 おわりに

【成績評価の方法】

定期試験

ミニレポートも加味

出席点はボーダーで考慮に入れる

【テキスト】

『標準高等地図－地図でよむ現代社会－』帝国書院

【参考文献】

授業中に紹介

科 目 名			
地誌			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04 08	春学期 秋学期	2単位 2単位	野 尻 亘

【講義概要・学習目標】

中学社会科・高校地理歴史科授業のための地理教材研究を行う。

【授業計画】

中学・高校における地理教育の意義や方法論について講義するとともに、授業のための世界諸地域や日本の諸地域の教材化について解説する。

【成績評価の方法】

毎時間、出席調査をかねて、授業終了時に小テストを行う。小テストの得点をもとに平常点のみで採点。出席の悪い者、小テストの成績の悪い者は不合格にする。

【テキスト】

使用しない。毎時間教材プリント配布。

【参考文献】

中学・高校用地図帳（出版社を問わない）が残っていれば持参してほしい。

科 目 名			
地誌			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02 03	春学期	2単位	矢 嶋 巖

【講義概要・学習目標】

本講義では世界地誌を講じる。世界の諸地域について、自然・人文・社会環境を学ぶことで、激しい変化を遂げている世界各地域への総合的理解を深めることを目標とする。また地誌を学ぶことは、世界の地域的多様性や相互的影響の理解にもつながる。なお、地域への理解を深めるために、博物館の課外見学レポートを課すつもりである。また、本講義が高校地歴科・中学社会科教員免許の履修科目として位置づけられていることから、毎回の講義で講義内容についての小試験あるいはレポートなどを課す予定である。そのつもりで臨みたい。

【授業計画】

授業計画

1. はじめに
2. 東アジア
3. 東南アジア
4. 南アジア
5. 西アジア・北アフリカ
6. 中南アフリカ
7. ヨーロッパ
8. CIS
9. アングロアメリカ
10. ラテンアメリカ
11. オセアニア

※講義には中学・高等学校で使用した地図帳を持参することが望ましい。

【成績評価の方法】

毎回の講義での小試験あるいはレポートの成績と、学期末試験の成績から総合的に算定する。

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

河上 税・田村俊和編著『日本からみた世界の諸地域：世界地誌概説』原書房, 2001年

科 目 名			
地誌			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06 07	秋学期	2単位	矢 嶋 巖

【講義概要・学習目標】

本講義では日本の各地方について、自然・人文・社会環境を講じ、日本の地域的多様性や各地方の相互的影響への理解を深めることを目標とする。なお、地域への理解を深めるために、博物館の課外見学レポートを課すつもりである。また、本講義が高校地歴科・中学社会科教員免許の履修科目として位置づけられていることから、毎回の講義で講義内容についての小試験あるいはレポートなどを課す予定である。そのつもりで臨みたい。

【授業計画】

1. 日本の自然・人文環境の概観
2. 九州・沖縄地方
3. 中国・四国地方
4. 近畿地方
5. 中部地方
6. 関東地方
7. 東北地方
8. 北海道地方
9. まとめ

※講義には中学・高等学校で使用した地図帳を持参することが望ましい。

【成績評価の方法】

毎回の講義での小試験あるいはレポートの成績と、学期末試験の成績から総合的に算定する。

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

伊藤喜栄『図説 日本の生活圏』古今書院, 2004年
山村順次編『新訂 図説日本地理：日本列島の地域変容』原書房, 2001年

科 目 名			
地方財政論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	竹 原 憲 雄

【講義概要・学習目標】

わが国の都市財政のしくみ・特徴・課題について検討する。
 わが国の総人口の80%は都市で生活している。また大阪市の経済だけでもアジアで7番目のトルコよりも大きい、いま日本の都市経済は、長期不況の痛手やグローバル化のなかで大きな曲がり角に立たされている。さらには、地方分権改革や小泉「三位一体改革」によって、都市行財政も見直しを迫られている。巨大な都市経済・都市行財政の行方が注目されている。
 だから、都市財政の実態を明らかにすることは、21世紀のわが国の経済社会を知るうえで重要な焦点の1つになっている。それはまた、これからの高齢化・国際化・分権化における私達の市民生活にとっても大切な検討課題である。こうした視点から日本の都市財政を考えてみた。
 なお、付論として、地元和泉市の財政分析も予定している。

【授業計画】

1. 都市財政の現状
2. 「三位一体改革」の実情と課題
3. 都市の財政支出
4. 都市の財政収入
5. 都市税制
6. 都市財政と財政調整制度
7. 国庫補助金と都市財政
8. 地方債と都市財政
9. 和泉市財政の現状

【成績評価の方法】

講義内容に関するレポート、出席状況、期末の試験により総合評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

講義のなかで紹介する。

科 目 名			
中国企業論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	トウ 唐 セイ 成

【講義概要・学習目標】

本講義では、「世界の工場」の担い手としての中国企業、とりわけ国有企業と民間企業に関する豊かな実態データをもとに、企業とその経営実態を分析しつつ、中国企業のビジネスモデルとその実力を解き明かす。そのうえで、1990年代以降急増した外資系企業の中国進出の現状、中国企業との経営戦略、組織、人事などの特徴を具体的な事例を紹介しつつ明らかにする。本講義を通じて、中国経済及び中国企業論を学ぶことによって、日本企業の中国への投資戦略を考え、そのビジネスの成功と失敗のカギを探ることを目標とする。また、講義と関連するテーマに沿って、グループによるテーマの勉強を重ねる（詳細は授業中に説明）。なお、期末テストの代わりに、グループワークのプレゼンテーションを行い、期末レポートを提出する。

【授業計画】

1. 中国企業を捉える視点
2. 国有企業の改革
3. 民間企業の形成と発展
4. 中国企業のアーキテクチャー革命
5. 中国企業経営者の実態、能力・素質と技能
6. 中国企業の組織と人事・労務管理
7. 大型国有企業の現状と事例分析
8. 民間企業経営の事例分析
9. 中国企業のビジネスモデルの盛衰
10. 中国企業の資金調達
11. コーポレート・ガバナンス
12. 中国企業グローバル化の道
13. 外資企業の中国進出と経営戦略
14. グループワークによるプレゼンテーション
15. グループワークによるプレゼンテーション

【成績評価の方法】

出席状況、授業への貢献度、グループワークのプレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

指定なし。毎回講義資料を配ります。

【参考文献】

安室健一著『中国企業の競争力』日本経済新聞社、2003年。
 清家彰敏・馬淑萍著『中国企業と経営』角川書店、2005年。
 杉田俊明著『国際ビジネス形態と中国の経済発展』中央経済社、2002年。
 日経ビジネス編『気がつけば中国が』『世界の工場』日経BP社、2002年。

【備考】

<06生>共通自由科目として、E生対象外
 E生は学科教育科目

科 目 名			
中国経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	巖 善 平

【講義概要・学習目標】

中国の経済規模は2005年に世界の第6位に浮上した。あと1、2年でフランス、イギリスを抜いて、アメリカ、日本、ドイツに次ぐ世界第4位になると見込まれている。輸出入総額、世界の対中直接投資額もそれぞれ世界の第3位と第2位となっている。日本にとっては中国が2004年から長年首位を占めたアメリカに取って代わった貿易相手国となっている。国際経済における中国のプレゼンスが高まるばかりである。

経済大国となりつつある中国だが、国内には巨大な地域間格差、工業公害をはじめとする環境問題、深刻な政治腐敗、潜在的食糧需給逼迫、少子高齢化とそれに伴う社会保障など問題も山積している。2020年まで年率7%の持続成長が目指されているが、はたして可能なのか。仮にそうなった場合、国際経済とくに日本経済にどのようなインパクトが与えられるか。

この講義では、経済大国だが、一人当たり所得水準（国内総生産）がようやく1000米ドルを超えたばかりの途上国としての中国を、経済を中心としつつも、歴史、社会、政治なども視野に入れて体系的に説明する。そして、日中関係なかでも日中の経済関係に関するテーマを取り上げその現状を解説して将来展望を行う。中国に親近感をもつ人が激減するなかこそ、巨大な隣人をより客観的に理解し冷静な対応が求められている。この講義はそのための知識を提供する。

【授業計画】

授業では、下記の教科書の内容をベースに、関連するトピックを24程度に整理してそれぞれについて詳しく解説する。

序章 中国経済への招待

第1部 現代のなかの歴史

第1章 20世紀の中国経済—発展と変化の道程

第2章 中国社会主義再考

第3章 経済発展と市場移行—改革開放の20年

第2部 多様性のなかの発展

第4章 変貌する農民国家—農業・農村・農民問題

第5章 企業体制の転換、進化および収斂

第6章 工業化の空間的側面

第7章 財政、金融からみた中央と地方

第8章 失業、貧困と所得格差

第9章 人口と社会保障—セーフティネットの再構築

第3部 世界のなかの中国

第10章 貿易大国の実像—貿易と直接投資

第11章 グローバル化のなかの中国企業

第12章 香港・台湾と中国—チャンスか？トラップか？

第13章 北東アジアと中国—ボーダブルからボーダレスへ

終章 中国経済の行方

【成績評価の方法】

出席状況（出欠調査は打ち抜きで行う）、中間レポート、期末試験の成績を総合して行う。

【テキスト】

加藤弘之・上原一慶編『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年

【参考文献】

中兼和津次監修・『シリーズ現代中国経済』全6巻 名古屋大学出版会 2002-05年

巖善平のホームページ <http://rio.andrew.ac.jp/~yan-sp/>

ほかは随時配布。

科 目 名			
中国語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

中国語の誤報と発音の基礎訓練、特に漢語ローマ字の習熟及び基本文型・語彙の構造などの理解から日常会話を習得し、下記の教科書を用いながら講読する。なお定期的に発音の矯正を個別に行うので、受講生はこれを必ず受けること。また週二回の授業は同じ担当者が文法と講読を同時に行うため、クラスを間違えないように特に注意してください。

【授業計画】

<前期>（1）現代中国語概説

（2）漢語ローマ字

（3）発音と四聲

（4）教科書第1課から第10課までの講読

<後期>教科書第11課から第20課までの講読

【成績評価の方法】

出席率と前・後期の試験による。

【テキスト】

興水優（監修）『基礎中国語会話』改訂版、東方書店

科 目 名			
中国語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02 03	通期	2単位	ジョ 徐 コク ギョウ 徐 国 玉

【講義概要・学習目標】

「発音よければ、半ばよし」－この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。ピンイン（ローマ字による発音表記）を頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚えること。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。そして、テキストの本文からビデオまで習う言葉と文型がいろんな形でリピートされている。1年間の勉強を通して、「耳」と「口」が中国語に慣れるよう努力すること。

また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介する。

【授業計画】

<前期>導入

発音段階①ピンイン（ローマ字による発音表記）

②四声（中国語のイントネーション）

③総合練習

本文の勉強第1課～第6課 2 コマー課のペースで行う
（文法と言葉の使い方の説明、本文の説明、並びに朗読、翻訳、練習）

<後期>本文第7課～第10課 前期と同じ

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価

【テキスト】

「1年生のころ」（ビデオで学ぶ中国語 改定版 CD付き 朝日出版社）

【参考文献】

「デイリーコンサスス中日辞典」
杉本達夫などの編集（三省堂）

科 目 名			
中国語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

中国語の誤報と発音の基礎訓練、特に漢語ローマ字の習熟及び基本文型・語彙の構造などの理解から日常会話を習得し、下記の教科書を用いながら講読する。なお定期的に発音の矯正を個別に行うので、受講生はこれを必ず受けること。また週二回の授業は同じ担当者が文法と講読を同時に行うため、クラスを間違えないように特に注意してください。

【授業計画】

<前期>（1）現代中国語概説

（2）漢語ローマ字

（3）発音と四聲

（4）教科書第1課から第10課までの講読

<後期>教科書第11課から第20課までの講読

【成績評価の方法】

出席率と前・後期の試験による。

【テキスト】

興水優（監修）『基礎中国語会話』改訂版、東方書店

た
行

科 目 名			
中国語Ⅰ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02 03	通期	2単位	オウ ヨウ キョウ 汪 暁 京

【講義概要・学習目標】

「発音よければ、半ばよし」—この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。ピンイン（ローマ字による発音表記）を頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚えること。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。そして、テキストの本文からビデオまで習う言葉と文型がいろんな形でリピーティングされている。一年間の勉強を通して、「耳」と「口」が中国語に慣れるよう努力すること。また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介する。

【授業計画】

<前期> 導入
発音段階 ①ピンイン（ローマ字による発音表記）
②四声（中国語のイントネーション）
③総合練習
本文の勉強 第1課～第7課 2コマ一課のペースで行う
（文法と言葉の使い方の説明、本文の説明、並びに朗読、翻訳、練習）
<後期> 本文 第8課～第16課 前期と同じ

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【テキスト】

「一年生のころ」（ビデオで学ぶ中国語 改訂版）
（CD付き） （朝日出版社）

【参考文献】

「デイリーコンサイス中日辞典」
杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘 [共編]
（三省堂 1998）

科 目 名			
中国語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

中国語Ⅰで修得した発音と語法をふまえて、語彙を増やし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況及び宿題の提出をもって平常点とする。

【授業計画】

<前期> 復習編（一）～（五）及び応用編第1課～第5課
<後期> 応用編第6課～第14課

【成績評価の方法】

平常点と前・後期の試験による。

【テキスト】

丁秀山、坂井田ひとみ 編著 『日常的対話』 金星堂

【参考文献】

香坂順一 編『簡約 現代中国語辞典』 光生館

科 目 名			
中国語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	サ左 コウ虹

【講義概要・学習目標】

中国語を1年間勉強した学生を対象に、既に習得した現代中国語の基本構造をもとに、更に優しい文体に親しみながら、文法や語彙に関する知識をより広く、深く習うことを目的とする。なお言葉の背景に文化、思想があり、中国語を学ぶと同時に中国人のものの見方、考え方、風俗習慣などに触れ、異文化理解ということも欠かせない。1年間を通じて800語前後マスターできるように授業を進める。

【授業計画】

前期：1年次の学習内容を再点検しながら、新しい内容に入る。ビデオなどを通じて敬語、自己紹介、各場面の実用会話などの習得。

後期：前期で習得した内容をもとに、ビデオなどを通じて空間表現、補語による表現、形容詞の表現、動作の容態、比較、類似の表現などの学習。

前期はテキスト1、後期はテキスト2を目標に授業を進めていく。また月2回時事中国のゼミナールを行う。

【成績評価の方法】

平常点（出席状況20%、宿題の提出など20%）、確認テスト（60%）などの総合点数で成績を評価する。

【テキスト】

前期：『理香と王麗 話す中国語1』
後期：『理香と王麗 話す中国語2』

著者：董 燕、遠藤 光
出版社：朝日出版社

【参考文献】

授業の際に指定する予定。

科 目 名			
中国語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	2単位	ジョ徐 コク国 キョク玉

【講義概要・学習目標】

この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にちょっと難しい会話ができるように進めていく。

【授業計画】

【前期】 第1課～第7課
【後期】 第8課～第15課

【成績評価の方法】

出席状況、平素の小テストの評点と前期、後期のテストの評点で総合的に評価します。

【テキスト】

『中国語実力アップ教本』（徐国玉／山田忠司 著 白帝社出版）

【参考文献】

『中日辞典』（小学館）

た
行

科 目 名			
中国語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

中国語Iで修得した発音と語法をふまえて、語彙を増やし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況及び宿題の提出をもって平常点とする。

【授業計画】

<前期>復習編（一）～（五）及び応用編第1課～第5課
<後期>応用編第6課～第14課

【成績評価の方法】

平常点と前・後期の試験による。

【テキスト】

丁秀山、坂井田ひとみ 編著 『日常的対話』 金星堂

【参考文献】

香坂順一 編『簡約 現代中国語辞典』 光生館

科 目 名			
中国語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	サ 左 コウ 虹

【講義概要・学習目標】

中国語を1年間勉強した学生を対象に、既に習得した現代中国語の基本構造をもとに、更に優しい文体に親しみながら、文法や語彙に関する知識をより広く、深く習うことを目的とする。なお言葉の背景に文化、思想があり、中国語を学ぶと同時に中国人のものの見方、考え方、風俗習慣などに触れ、異文化理解ということも欠かせない。1年間を通じて800語前後マスターできるように授業を進める。

【授業計画】

前期：1年次の学習内容を再点検しながら、新しい内容に入る。ビデオなどを通じて敬語、自己紹介、各場面の実用会話などの習得。

後期：前期で習得した内容をもとに、ビデオなどを通じて空間表現、補語による表現、形容詞の表現、動作の容態、比較、類似の表現などの学習。

前期はテキスト1、後期はテキスト2を目標に授業を進めていく。また月2回時事中国のゼミナールを行う。

【成績評価の方法】

平常点（出席状況20%、宿題の提出など20%）、確認テスト（60%）などの総合点数で成績を評価する。

【テキスト】

前期：『理香と王麗 話す中国語1』
後期：『理香と王麗 話す中国語2』

著者：董 燕、遠藤 光
出版社：朝日出版社

【参考文献】

授業の際に指定する予定。

科 目 名			
中国語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	2単位	ジョ 徐 コク 国 キョウ 玉

【講義概要・学習目標】

この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にちょっと難しい会話ができるように進めていく。

【授業計画】

【前期】 第1課～第7課

【後期】 第8課～第15課

【成績評価の方法】

出席状況、平素の小テストの評点と前期、後期のテストの評点で総合的に評価します。

【テキスト】

『中国語実力アップ教本』（徐国玉／山田忠司 著 白帝社出版）

【参考文献】

『中日辞典』（小学館）

科 目 名			
中国史Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	石 黒 亜 維

【講義概要・学習目標】

経済的な急成長をとげ、政治的にも影響力を拡大しつつある隣国中国。近年特に日中関係の重要性が様々な局面において議論されているが、歴史を繙けば、その関係の始まりは古代にまで遡り、また相互認識・交流のあり方も様々に変化してきた。現代中国、とりわけ日中関係に対する理解を深めるためには、中国はもとより日中間のこの長い動的な歴史をまず理解する必要がある。本講義では古代中国から清末民初までの中国史を概観することによって、（１）日中関係史の基本的な事象を把握し、（２）その変遷を具体的なトピックスを通して考察することを学習目標とする。中国に対する理解を深めるため、映像資料等も適宜活用していく。

【授業計画】

1. 「中国」とは何か
2. 古代文明と邑制国家
3. 皇帝支配の成立
4. 帝国の分裂と再統合
5. 東アジア世界の変容
6. 中華帝国の繁栄
7. 動揺する中華帝国
8. 中華復興の試み

【成績評価の方法】

筆記試験によるが、授業中の小レポート、出席状況も考慮する。

【テキスト】

岸本美緒、浜口允子『東アジアの中の中国史』放送大学教育振興会、2003年

【参考文献】

尾形勇、岸本美緒編『中国史』山川出版、1998年

【備考】

<06生>共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

た
行

科 目 名			
中国史Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	石 黒 亜 維

【講義概要・学習目標】

19世紀半ば以来、中国は列強諸国からの支配を受け、特に日本との間で戦争を経験し、中華人民共和国の成立後も国際的国内的諸矛盾のなかにおかれ、20世紀はまさに激動の世紀であった。本講義では中国の近現代史を東アジアを視野に入れつつ多角的にとりあげ、(1) 20世紀の中国社会はどのようなパラダイムで把握されてきたのか、(2) 日中関係はどのような変遷をたどったのかという問題に焦点をあて、グローバル化過程にある中国社会の変容を歴史的に検討することを学習目標とする。中国に対する理解を深めるため、映像資料等も適宜活用していく。

【授業計画】

1. 近代世界のなかの中国社会
2. 「西洋の衝撃」と中国の反応
3. 辛亥革命と中華民国の成立
4. 中国ナショナリズムの高揚
5. 第二次世界大戦と中国
6. 内戦から新中国誕生へ
7. 中華人民共和国の27年
8. 現代中国の新たな展開

【成績評価の方法】

筆記試験によるが、授業中の小レポート、出席状況も考慮する。

【テキスト】

岸本美緒、浜口允子『東アジアの中の中国史』放送大学教育振興会、2003年

【参考文献】

池田誠他編『図説中国近現代史（第2版）』法律文化社、2002年

【備考】

<06生> 共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

科 目 名			
中国体験特講			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	上 野 勝 男

【講義概要・学習目標】

この授業は、いまや「世界の工場」から「世界の市場」に躍進する中国経済と社会、そして中国の人々に、さまざまなかたちで関わってこられた方々の経験と体験を、さまざまな角度から講義していただくものです。日本からの企業進出に長年たずさわってこられた方、勇躍して中国にわたり苦勞して事業を起こした方、日中の中を行き来し二つの経済と社会を冷静に見つめてこられた方、そして私たち桃山の先輩で中国ビジネスで活躍されている方など多彩な講師が登場します。

授業を通じて、中国の生き生きとした姿、中国という舞台でチャレンジする意味、中国・中国の人々とどのように関わるべきか、などについて関心と理解を深めることを目標とします。

【授業計画】

最初の授業で、授業の計画と進行について説明します。

【成績評価の方法】

授業への出席と集中しての聴講。レポートなど課題の提出と評価などを総合して行います。

【参考文献】

随時示します。

科 目 名			
中国の自然と地域			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	松 崎 征 弘

【講義概要・学習目標】

広大な国土面積を有する中国には多様な自然と地域特性があり、それが、中国の自然環境を制約しているが、その実態は我国では想像できないほど、過酷な条件にあると共に、国土破壊或いは地球規模での越境性環境汚染の原因ともなっている。従って、中国の地理的特性、自然環境そして地域特性について、産業或いは国際関係との観点で理解を深める。地理的特性としては、我国の26倍近くの国土面積だが、その33%が山岳地域、26%が高原地域、10%が丘陵であり、平原と盆地が31%となっていることから、その国土に生活する13億近くの国民にとっては、それほど良好な生活環境ではないことを理解する。自然環境として東西南北に分けて考える。最北端が極寒にあるときに、最南端では水泳ができ、菜の花が満開の時期である。そして、華北平原以北では渇水状態にあるが、華東や華南地域では湿潤な気候と豊富な降水量を得ている。その結果、国土の各地域での気象条件の差だけではなく、それに起因する“水土流失”や“黄河の断流”に代表される自然災害が多発し、さらには砂漠化の進展に伴う我国への黄砂の飛来などの存在にも目を向ける。地域特性では、上述した過酷な自然条件の中で、各地域での民生・産業活動が行われていることを理解する。とりわけ、中国経済のグローバル化に伴い地域間の経済格差の解消が喫緊の課題となっていることに重点を置く。

【授業計画】

特に我国との比較をすることで、過酷な条件にある国であることの理解に務める。15回を3段階に分けて進める。毎回テキスト及び配布資料（コピー）を使用。
第一段階：地理的特性について、少ない耕地面積の結果としての食糧問題及び広大な国土面積ではあるが、地下資源がそれほど豊富でなく、エネルギー・天然資源の輸入国に転じている実態を把握する
第二段階：環境汚染と生態系破壊の進展・深刻化について追及する。とりわけ産業化が進み、生活レベルの向上に伴う生態系破壊は一国だけでなくグローバルな問題として捉える
第三段階：地域特性としての経済上の「東西と南北」格差の存在及び、その格差解消に向けた中西部大開発と東北地区老朽工業の近代化を取り上げる。とりわけ、中西部と東北地区については今世紀最大の地域経済開発という観点で理解を深める

【成績評価の方法】

最終講義日にレポート提出或いはペーパーテストを行う

【テキスト】

- ①「現代中国ビジネス論」（佐々木信彰編、世界思想社）
- ②第十一次五ヵ年計画と節約型社会に関する、コピー配布

【参考文献】

- ①中国環境公報（各年度版）
- ②「2020年の中国」（鮫島敬治、日本経済新聞社）

【備考】

<06生> 共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

科 目 名			
中国貿易投資事情			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	上 野 勝 男

【講義概要・学習目標】

この科目は、液晶ディスプレイなどの独自技術で躍進を続けるシャープ株式会社の全面的な協力をえておこなうものです。
授業では、（１）シャープのこれまでの歩みから経営の理念・戦略を多角的に講義します。それと同時に、（２）シャープは、経済の台頭著しい中国に早くから生産拠点を構え、事業を発展させています。この中国戦略について、中国に進出する際にクリアしなければならなかった問題を、具体的な苦勞のエピソードをまじえながらわかりやすく述べていく予定です。
授業を通じて、中国経済・貿易投資の現状を理解すると共に、日本企業の対中国戦略について、今後の展望について関心と理解を深めることを目標とします。中国経済に関心のある諸君はもちろん、シャープやエレクトロニクス産業に興味をもつ諸君にも多いに役立つはずで

【授業計画】

最初の授業において、講義の計画と進行について説明します。講義の大まかな予定は以下の通りですが、場合により変更などがあります。
１．会社の沿革と経営理念・基本戦略
２．中国進出の背景および進出地を選択した背景と問題点
３．工場建設にともなう中国固有の問題点
４．職員の確保と教育
５．業務の概要
６．会計・法律上の問題点と会社管理
７．日中の棲み分けおよび今後の展開について

【成績評価の方法】

授業への出席と集中、課題の作成などを総合的に評価して行います。

【参考文献】

随時示します。

【備考】

<06生> 共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

科 目 名			
中小企業論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	義 永 忠 一

【講義概要・学習目標】

現状における中小企業に関する様々な問題を追いながら、特に製造業を中心に引き上げ講義を行います。
これまで中小企業論が注目してきた「問題性」の認識と現在の課題を広く把握することを学習の目標とします。

【授業計画】

- ・中小企業への視座:なぜ中小企業に注目するのか?
- ・変化する中小企業:日本の下請システムの理解
- ・中小企業を取り巻く環境の変化
:日本の下請システムの変化と中小企業;情報化;グローバル化
- ・産業集積と中小企業
- ・中小企業の課題

基本的に教科書に沿って講義を進めます。
教科書以外に、ビデオ、独自資料を使った講義も行います。

【成績評価の方法】

毎講義開始15分間、当日の日本経済新聞のチェックを行います。
当日の日本経済新聞朝刊を購入して講義に臨んでください。不定期に、この新聞チェックに関する小テストを実施します。小テスト(40点)と学期末試験(60点)で評価します。

【テキスト】

植田浩史編著『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣, 2006年。

【参考文献】

上田達三監修 田中充・佐竹隆幸編著『中小企業論の新展開』八千代出版, 2000年。
植田浩史編『産業集積と中小企業』創風社, 2000年。
植田浩史編『「縮小」時代の産業集積』創風社, 2004年。

科 目 名			
朝鮮語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	ユン ヨン ファ 尹 英 和

【講義概要・学習目標】

この講義では、大韓民国で使われる朝鮮語(以下韓国語)を中心に授業を進めます。
文法において酷似の日本語と韓国語も、発音においてはその違いが目立ちます。韓国語の発音を日本語の発音と比較しながら、繰り返し練習します。また、日常生活でよく出会う挨拶表現など、実際の会話で意思疎通に役立つ表現を、活動とともに勉強していきます。

【授業計画】

前期: 1 課 ~ 12 課
後期: 13 課 ~ 18 課

【成績評価の方法】

2 回のテストと出席率に基づき、総合的評価します。

【テキスト】

長谷川由紀子『コミュニケーション韓国語(会話編1)』白帝社

科 目 名			
朝鮮語Ⅰb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	徳 成 外志子

【講義概要・学習目標】

朝鮮半島の文字「ハングル」は、わずか24の音素文字（基本母音字10、基本子音字14）の組み合わせによってできていて、とても合理的で平易です。また、「てにをは」があることや、語順などの文法事項も日本語に非常によく似ていて、日本人にとって最も学びやすい外国語です。

この授業では、朝鮮語を初めて学ぶ人を対象に、朝鮮語の文字・発音・基礎的文法事項を初歩から学習し、一年間で基本的文法事項をマスターします。辞書を引きながら朝鮮語で書かれた文章を読解できるようにし、簡単な作文や会話も行えるようにします。また折に触れて、朝鮮半島の社会や文化等に対しても理解を深めるようにします。

授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、北朝鮮で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきます。

【授業計画】

- 前期：1. 授業の進め方などガイダンス、朝鮮語の特徴
 2. 文字・発音・辞書の引き方・簡単なあいさつなど
 （1課～4課）
 3. テキストに沿って5課～8課
 ハムニダ体（上称形）名詞文、名詞文の否定と尊敬、
 ハムニダ体用言文、用言文の否定、
 数詞・疑問詞の使い方など

- 後期：1. テキストに沿って9課～12課
 尊敬形、連用形・ヘヨ体（略待上称形）、
 ヘヨ体の尊敬形、過去形など
 2. 連体形、進行形、未来・意志形など（13課・14課の要点）
 3. リウル語幹、変則用言の補足
 4. 状況に応じて、簡単な読み物の副教材や、歌、ビデオ等

【成績評価の方法】

前期・後期末テスト（60%）、平常の出席、小テスト、宿題、発音・聞き取りのチェックなど（40%）を総合的に評価します。語学は特に、出席と普段の授業の予習・復習が大切です。

【テキスト】

生越直樹・曹喜澈『ことばの架け橋』白帝社

【参考文献】

油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館。『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館。『パスポート朝鮮語小辞典』白水社。その他、授業で適宜紹介します。

科 目 名			
朝鮮語Ⅱa			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	ユン ヨン ファ 尹 英 和

【講義概要・学習目標】

この授業では初級レベルの完成を目指します。「朝鮮語Ⅰ」で学んだ基本的な表現を応用し、一歩進んだ会話表現を試みます。練習のため、課題も多くなると思います。

【授業計画】

- 前期：1－8課
 後期：9－16課

【成績評価の方法】

出席状況及び期末テストを総合的に評価します。

【テキスト】

油谷高利・南相環（2002）『総合韓国語2』白帝社

科 目 名			
朝鮮語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	青 野 正 明

【講義概要・学習目標】

「朝鮮語Ⅱ」を始める時期は、ある程度の基礎的な文法がわかっているため、高度な文法や文章表現の理解も容易であろう。「朝鮮語Ⅰ」で学んだ基礎力をもとに、さらに文法をしっかりと学びながら、徐々に難しい文章の翻訳ができるように進めていく。1年間を終えた段階では、辞書を引きながら新聞記事や簡単な論説文を翻訳することができるだろう。

【授業計画】

春学期：第11～17課 秋学期：第18～25課

【成績評価の方法】

出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。

【テキスト】

金東漢・張銀英『韓国語レッスン 初級Ⅱ』スリーエーネットワーク、2001年

科 目 名			
地理学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	野 尻 亘

【講義概要・学習目標】

地理学は具体的な「地域」、抽象的な「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象とし、固有の理論や法則を持っている。この授業では人文地理学や自然地理学の基礎について、具体的に学習する。教員採用試験の受験対策もあわせて行う。

【授業計画】

全28章におよぶテキストにおいては、全世界・日本の自然環境・景観・土地利用について概説する。またフンボルト・リッターの古典理論から、グレゴリー・セイアー・ハーヴェイなど、構造主義・ポストモダン・建造環境論について最新の地理学の学説を紹介する。さらにチューネン・ウエーバーの古典的な立地論からクルーグマンの最先端の経済立地理論までおよび、古典的なシカゴ学派から新都市社会学に至る都市社会空間理論までの発展を概説する。要するに、中学・高校の教職・地理教育に関連する基本事項から、現代思想の動向をふまえた地理学の最新理論について学習を行う。

【成績評価の方法】

定期期間内試験（期末テスト）で、客観テストの得点のみで成績をつけます。教職に関連する科目なので、内容が幅広く、かつ安易に単位を出せない事情を理解して、注意して履修してください。

【テキスト】

野尻亘・古田昇『世界市民の地理学』晃洋書房

【参考文献】

地理学理論に関する文献については授業中に適時紹介する。また中学・高校時に使用した「地図帳」が家に残っていれば、授業に持って来ていただければ幸いです。

【備考】

教科書も変更となって、前年度より授業内容がはるかにむずかしくなりました。

科 目 名			
通訳法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	遠 山 淳

【講義概要・学習目標】

正直に言えば、通訳者になるのであれば、TOEFLに換算して600点ぐらいはないと、他人のための通訳などとても望めない。通訳をするということは、他人の言語生活を、文化を超えて共有することである。
適正の問題もある。日本語力、英語力、専門知識、教養、異文化・国際行動の常識、通曉性の高い発音、これらすべてが学習目標となるし、加えて通訳技法の習得である。このコースは英語学習のコースではなく、通訳法の入門コースである。
技術的に少人数クラスでないとクラス運営ができない。最初の授業において実力適正試験を行う。LL教室を使用。

【授業計画】

1. はじめに：「通訳法」と「通訳者」
2. アド・ホック通訳（日英）と逐次通訳（英日）
3. 逐次通訳法とメモ取り訓練（英日・日英）
4. 簡単な同時通訳法訓練（英日）
5. 逐次通訳法を中心とする訓練
6. 模擬訓練と実力試験、などを随時行う。

【成績評価の方法】

期末に行う実力試験（performance）で評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。学生は、メモ取り用の雑記帳と空テープを、毎回用意すること。

【参考文献】

授業中に紹介する。

科 目 名			
ディスカッション法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	ラウール セルバンテス Raoul Cervantes

【講義概要・学習目標】

This class is for advanced students of English who want to improve their speaking ability. In this class students will view interesting American and British films and discuss their understanding of the movie and their opinions of the films. All films will be in English with English subtitles. No Japanese will be used.

【授業計画】

Films will be announced later, when the class begins.

【成績評価の方法】

Students will be graded on their participation and use of English. Students must come to class and must speak English only. To pass this class, students must speak English.

【テキスト】

none

【参考文献】

none

【備考】

none

た
行

科 目 名			
ディベート法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	萬 戸 克 憲

【講義概要・学習目標】

与えられた課題について、①論理的に思考して自分の意見として発表し、②相手の論拠の矛盾を見極め、③その場で反駁することなどが英語でできるようになるのが目標である。

課題についての調査や発表の準備などで、毎時間積極的な取り組みが必要である。かなりきつい授業であるので、覚悟して受講してほしい。また、無断で欠席するとチームのメンバーに迷惑をかけるので、絶対に休まないように。

この授業を通じて、英語で、自分の意見を述べ、相手に反駁し、それらを組み入れてさらにまとめて自説を強調できるようになることを期待している。

最初の授業で英文のプリントを配布する。二時間目以下記の課題について自分でまとめて提出する。(日本語でB5版、3～5枚) ①ディベートとディスカッションの違い ②ディベートを通じて、どのような力が身につけられるか ③この授業に対する私の期待

【授業計画】

1. 前、後期を通して、毎時間数名に英語でのスピーチを課す
2. 前期には、Smoking, Sexual discrimination, Death Penaltyなどの問題を取り上げ、ディベートの基本から学習し、さまざまな問題について論理的に考えるとどのようなことかということから始める。
実際のディベートでは、Constructive Speech, Cross-Examinationの段階まで進める。
3. 後期には、Gun Control, Euthanasia, Same-Sex Marriageなどを題材として取り上げる。ディベートとしてはRebuttal and Summaryまで、その場でできるよう進める。

【成績評価の方法】

ディベートへの参加、各自4～5回の英語でのスピーチ、および期末考査3回以上欠席すると、単位は認められない。

【テキスト】

T. Nishimoto 『Both Sides Now』 Seibido

【参考文献】

Y. Matsumura 『Enjoy Debating』 Eichosha

科 目 名			
データベース実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	初 瀬 慎 一

【講義概要・学習目標】

本講座では、Microsoft Accessを用いてデータベースを作成し、リレーショナルデータベース全般の基礎的概念、構築・運用の実際について学ぶ。次いでサーバーに構築されたRDBMS環境を利用して、SQLを用いてのデータ検索を行う。

さらにWEBサーバーと連携して、簡易データベース機能を持つホームページを作成する。

【授業計画】

1. Microsoft Accessの基本操作
2. データ型の決定、入力・出力・検索フォーマットの決定
3. データ入力
Excelなどからのインポートと、トランザクション処理
4. データベース検索
5. データファイルの追加とリレーショナル処理
6. PostgreSQLの基本操作
7. SQL言語によるデータ検索
8. WWWサーバーとCGIによる簡易データベースの作成

【成績評価の方法】

提出課題の評価を中心に、試験との総合評価を行う。出席は授業日数の3分の2以上であること。

【テキスト】

開講時に指示する。

科 目 名			
哲学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	木 下 昌 巳

【講義概要・学習目標】

哲学とは、一言で言えば、世界の全体像とそのなかにおける人間の位置を、理論的にあきらかにすることを目的とする営みである。本講義では、古代ギリシアから現代に至るまでの代表的な西洋の哲学者の思想を紹介しつつ、それと平行して現代的な哲学的トピックを取り上げ、その上で現代に生きる我々とそれらの哲学的問題との関わりを考察することを目指す。

【授業計画】

1. 哲学の誕生ー古代ギリシアの哲学者たち
2. 哲学の時代ー近代の哲学者たち
3. 哲学の岐路ー現代の哲学者たち

【成績評価の方法】

学期末テストによる

【テキスト】

初回授業で指示する。

【参考文献】

授業中に随時指示する。

科 目 名			
ドイツ語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	田 中 秀 穂

【講義概要・学習目標】

初めてドイツ語を学ぶ学生を対象として、初級文法の講義と演習を行なう。アルファベットや発音から始めて、基本的な文法事項を習得していく。

ドイツ語には、主語によって動詞の形が変わる「人称変化」や、名詞や冠詞などが文中での役割によって変化する「格変化」、独特の語の並べ方など、さまざまな興味深い特徴がある。このようなドイツ語の表現の基礎を、練習問題に取り組むことによって確実に身につけてもらいたい。

【授業計画】

【前期】

0. アルファベット、発音
1. 動詞の現在人称変化
2. 名詞の性と格、定冠詞と不定冠詞
3. 語順、不規則動詞
4. 定冠詞類と不定冠詞類
5. 副文
6. 助動詞
7. 分離動詞、zu不定詞

【後期】

8. 動詞の3基本形、過去人称変化
9. 現在完了形
10. 再帰動詞
11. 形容詞の格変化
12. 比較級と最上級、命令法
13. 関係代名詞
14. 受動態
15. 接続法

【成績評価の方法】

前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、I a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。

【テキスト】

著 者：大岩信太郎
書 名：新正書法版・身につくドイツ文法
発行所：同学社

【参考文献】

独和辞典は、初回にいくつか紹介するので、随意に選んで1冊購入すること。

科 目 名			
ドイツ語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	村 田 佳 隆

【講義概要・学習目標】

ドイツ語学習の土台を作ることがこの授業の目標である。発音の練習をまずたっぷりこなす。最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。とにかく出席して、授業中に頑張ること。

【授業計画】

テキストに従う。

【成績評価の方法】

前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。

【テキスト】

大谷弘道 『新・問いかけるドイツ語 改訂版』 三修社

科 目 名			
ドイツ語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	村 田 佳 隆

【講義概要・学習目標】

ドイツ語学習の土台を作ることがこの授業の目標である。発音の練習をまずたっぷりこなす。最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。とにかく出席して、授業中に頑張ること。

【授業計画】

テキストに従う。

【成績評価の方法】

前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。

【テキスト】

山本淳 『新々・じゃあまたあした』 同学社

科 目 名			
ドイツ語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	田 中 秀 穂

【講義概要・学習目標】

初級ドイツ語の授業で身につけた知識をもとに、自分でドイツ語の文を作ってみよう。文法事項ごとに構成された明快なテキストを使用し、やさしく基本的な短いドイツ語を書き表わせるようになることを目標とする。

練習問題には、必要な単語やヒントが添えられており、和独辞典は不要であるが、独和辞典は必ず持ってくること。

文法などで忘れたことや分からないことがあれば、そのつど説明するので、表現してみようとする姿勢を大切に積極的に参加してほしい。

【授業計画】

【前期】

動詞の現在人称変化、冠詞と名詞の格変化、冠詞類、副文、前置詞、分離動詞、過去人称変化など

【後期】

現在完了形、未来、形容詞、受動、zu不定詞句、比較、話法の助動詞、関係代名詞、再帰動詞、命令法など

【成績評価の方法】

前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、I a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。

【テキスト】

著 者：大岩信太郎

書 名：はじめての独作文〔改訂新正書法版〕

発行所：朝日出版社

科 目 名			
ドイツ語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	坂 昌 樹

【講義概要・学習目標】

ドイツへ行ってドイツ語を学ぼうという学生が現れることを期待して、授業を行います。もちろん、ドイツ行きはノルマではありませんが、より多くの学生にドイツ語研修ないしドイツ語圏への長期留学に参加してもらいたいと希望します。

そのために学習の重点を、会話やドイツ語Iで習った基礎知識の確認におきます。場合によれば、ドイツ語検定試験の準備学習も織り交ぜたいと思います。

わからないことがあったらなんでも質問してください。わからないことがあったり、あるいはドイツ語Iで習ったことを忘れてしまっている、そのことを低く評価したりはしません。低く評価するのは、それらを知らないままにしておく態度です。積極的な授業参加を望みます。

【授業計画】

テキストを順次学習します。可能ならば、11月に実施されるドイツ語検定試験の準備もおこないます。

【成績評価の方法】

毎回の授業で出席をとり、前期と後期の終わりに試験を行います。また、授業への積極的な参加も評価されます。ただし全体の成績評価は、Ⅱ aを担当する教師と相談して総合的に決定します。

【テキスト】

『ドイツ語の時間（初級読本 インゲとツヨシ）』、朝日出版社（¥2400）

【参考文献】

独和辞典を毎回持参してください。

【備考】

連絡先：（研究室）アンデレ館7階725室

（tel）0725-54-3131（内線）3725

（Email）ban@andrew.ac.jp

面談：在室中は、随時可能です。

※ドイツ語の授業すべてとの関連で、夏休みに4週間、ドイツの大学（フライブルク大学）でドイツ語を勉強する語学研修を国際センターが募集しています。とても楽しい研修です。みなさんも一度、ドイツへ行ってみませんか？

科 目 名			
統計学総論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	井 田 憲 計

【講義概要・学習目標】

まず記述統計（＝統計データの整理と記述の方法）の知識を身に付け、さらに推測統計（＝確率の考えをもとに、標本から母集団の特性を推論する方法）の基礎的な考え方の把握を目的とする。

実際にパソコンを使って教科書の例題を計算するなどの課題にも挑戦する予定だが、決して難しい作業ではない。

「統計的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できっと役に立つものである。

【授業計画】

1. 代表値、度数分布
2. 確率分布と密度関数
3. 点推定
4. 平均の区間推定
5. 比較の区間推定
6. 検定の基本的な考え方
7. 平均の差の検定
8. 比率の差の検定
9. 多次元データの記述
10. クロス集計・相関係数
11. (回帰分析その1) 最小2乗
12. (回帰分析その2) 区間推計と仮説検定
13. 順位相関係数
14. 分割表の検定

【成績評価の方法】

出席、講義時間中の小レポート（不定期）

講義時間外の間レポート（1回程度）、期末試験、を総合して評価を行う。

【テキスト】

・佐和隆光 著『初等統計解析（改訂版）』新曜社（税込¥1,575.-）

【参考文献】

郡山彬+和泉澤正隆=著『統計・確率のしくみ（入門ビジュアルサイエンス）』日本実業出版社（税込¥1,365.-）

科 目 名			
統語論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	清 水 真 一

【講義概要・学習目標】

本講では、統語論における議論の仕方の基本を学ぶことをその目的の中心に据えたい。これまで受講生諸君の学習してきたはずのいくつかの英語の構文を整理し、さまざまな角度からそれらを観察することから話を始める。そうした構文の中には、疑問文、受身文と能動文、関係詞節、動詞の型（補文構造）などが含まれるであろう。こうした基本的な構造を扱いながら、その派生にかかわると考えられる移動、照応現象などを考察し、その具体的な道具立てとその働きにかかわる基本的な仕組みについての考察をおこなってみたい。データは英語を中心とする。

【授業計画】

1. 構文の整理
2. 項構造
3. 格
4. 移動と最小性
5. 句構造
6. 語順
7. 束縛
8. まとめ

【成績評価の方法】

原則として、試験、小テスト、出席に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献】

授業中に随時、指示する。

科 目 名			
倒産処理法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	本 間 法 之

【講義概要・学習目標】

倒産処理法とは、破産法、民事再生法、会社更生法、会社法上の特別清算の総称です。倒産法とも呼ばれています。倒産は、まさに法律問題の《るつぽ》であり、種々の法領域に関わる問題の処理が求められます。言い換えれば、実体法と手続法が激しく交錯する場が倒産処理法です。本講義では、破産法、民事再生法、会社更生法を中心に、倒産処理法の基礎を概説します。倒産処理法は、「民法・商法→民事訴訟法→民事執行法」と続く民事法の流れの、いわば最後に位置するものということができます。本講義を受講する学生諸君には、少なくとも民法・商法（会社法）、並びに、春学期開講の民事訴訟法、及び秋学期開講の民事執行法を併せて受講することが望まれます。

【授業計画】

- (1) 個別執行（民事執行）と包括執行（倒産処理）
- (2) 倒産法制と私的整理
- (3) 倒産処理手続の開始
- (4) 倒産処理手続における債権の処遇
- (5) 倒産処理と担保権
- (6) 倒産処理手続と倒産債務者をめぐる法律関係
- (7) 否認権
- (8) 倒産処理手続の終了
- (9) 消費者の倒産手続
- (10) 国際倒産

以上の項目につき、破産法・民事再生法・会社更生法を中心に講述します。

【成績評価の方法】

- (1) 平素の勉学状況（講義への出席・受講態度など）と、
- (2) 講義の際に適宜実施する試験の成績とを、総合的に評価して決定します。特に平素の勉学状況を重視します。
- (3) 講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。

【テキスト】

講義では、レジュメを配布する予定です。
講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。「六法」の種類は問いませんが、「破産規則」、「民事再生規則」や、会社更生規則」など、参照が必要な規則類が掲載されている六法を用意して下さい。

【参考文献】

講義の際に、適宜紹介します。

科 目 名			
道徳教育の研究			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	徳 永 正 直

【講義概要・学習目標】

子どもたちの「荒れ」や社会的規範意識の顕著な低下に対処するために道徳教育の一層の充実強化が求められている。しかし、「道徳」授業の評判はあまり良くない。何故「道徳」授業がつまらないのかを考え、コールバーグらの道徳性発達理論に依拠したモラルジレンマ授業の意義と問題点を、教育的タクト論の視点から検討する。あわせて価値多様化時代における道徳教育の課題を、学習指導要領との関連で考察する。

とかく問題の多い道徳教育に対して、各自の立場を構築することを目標としたい。

【授業計画】

1. 「教育」の重要性と危険性
2. 「道徳」授業批判
3. 子ども「荒れ」を考える。
4. アリス・ミラーの反教育学の立場から
5. 価値多様化時代における道徳教育の困難さ
6. 倫理学における自由主義の原理と環境倫理学
7. 道徳教育の課題 学習指導要領の解説と「心のノート」について
8. 道徳性発達理論 ピアジェとコールバーグ
9. モラルジレンマ授業について
10. モラルジレンマ授業の展開（ビデオ教材で確認）
11. 教育的タクトとは何か。
12. タクト論の視点から「道徳」授業の可能性をさぐる。
13. 賞罰問題と子どもの人権
14. 道徳教育の歴史を踏まえて今後の課題を確認する。

【成績評価の方法】

定期試験（80％）と講義関連の提出物（20％）で評価するが、履修者数が少数の場合には出席点も考慮したい。

【テキスト】

徳永・堤・宮嶋・榊原・林著『道徳教育論 対話による対話への教育』（ナカニシヤ出版、2003年）

【参考文献】

講義中にそのつど指示するが、予め2冊挙げておきたい。
徳永正直著『教育的タクト論—実践的教育学の鍵概念』（ナカニシヤ出版、2004年）
徳永・堤・宮嶋著『対話への道徳教育』（ナカニシヤ出版、1997年）

た
行

科 目 名			
東洋史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	串 田 久 治

【講義概要・学習目標】

「以史為鑑 察往知来」—歴史から何を学ぶか

今に伝わる多くの歴史書のひとつに、宋の司馬光（しばこう）が著した歴史書『資治通鑑（しちつがん）』がある。これは読んで字のごとく、過去の歴史を来るべき時代の治に資し、人間の鑑（かがみ）とするという歴史観である。ただ、歴史を鑑戒とする考え方は司馬光だけのものではなく、中国では古代から伝統的に受け継がれたものである。今も「史を以て鑑と為し、往を察して来を知る（人間の歴史を鑑とし、過去の過ちを察して未来の行方を知る）」精神は健在である。歴史に教訓が記録されない時、そして歴史に学ぶことができない時、歴史は繰り返される。

以上は拙著『儒教の知恵』の一節です。本講義は中国の歴史書に記録される史料を通して、歴史を記録することの意味を、そして歴史を学ぶことの意味を考えながら今日の日本や世界を考え、二十一世紀の世界を模索するものです。

【授業計画】

第一部 歴史を読み解く

- 1 History と 史
- 2 経と緯
- 3 春秋・樛机・乗
- 4 陰陽思想
- 5 五行思想
- 6 干 支

第二部 歴史を記録することの意味

- 1 直 筆
- 2 神格化
- 3 天の思想：革命・天道・災異
- 4 華夷思想

第三部 原則と例外

- 1 名と実
- 2 理念と現実
- 3 経と権

【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

【テキスト】

串田久治著『儒教の知恵—矛盾の中に生きる』（中公新書） 760円

【参考文献】

宮崎市定著『中国に学ぶ』（中公文庫）
市井三郎著『歴史の進歩とは何か』（岩波新書）
串田久治著『中国古代の「謠」と「予言」』（創文社）
串田久治著『ゆっくり楽に生きる漢詩の知恵』（学研）
串田久治著『天安門落書』（講談社現代新書）
今村仁司著『近代性の構造』（講談社選書メチエ）
武田泰淳著『司馬遷—史記の世界』（講談社学術文庫）
加地伸行著『史記—司馬遷の世界』（講談社現代新書）
KUSHIDA' S WEB SITE
<http://www1.odn.ne.jp/kushida>

科 目 名			
東洋史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	原 山 煌

【講義概要・学習目標】

中国を中心に、アジアの歴史の概要を考える。各地域の特色、そこで繰り広げられる歴史を、重要なキーワードを丁寧に分析することによって検討してゆく。今日のアジアの複雑な情勢が、歴史的所産によるところが大きいということが理解してもらえたいと考えている。

【授業計画】

まずアジア各地域の自然的条件の分析を行なう。そこで展開される人々の生活は、そのような背景抜きには考えられないからだ。そして、いくつかの重要なキーワードを示して、順次検討を加えてゆく。たとえば、「政治形態の諸相」「農耕と遊牧」「宗教と政治」「歴史的思考の種々相」などの項目がとりあげられるだろう。

【成績評価の方法】

毎回授業終了時に簡単な小テストを行なう。理解度と出席状況を知るためである。そして学期末の定期試験を行なう。これらを総合的に判断して成績を評価する。毎回出席して、きちんとノートをとって受講することが必要であろう。

【テキスト】

指定しない。ただし、トピックごとにレジュメを配布し、理解を助ける工夫をする。

【参考文献】

松田壽男『アジアの歴史』同時代ライブラリー 岩波書店。
三田村泰助『黄土を拓いた人びと』河出文庫 河出書房新社。

科 目 名			
東洋美術史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

美術の範疇はいたって広く、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。この講義では、東アジア・内陸アジアの多様な自然と生活、社会などを基盤として、どのような芸術が創造されてきたのかを問いたい。それには先史時代・殷・周・戦国・秦・漢・南北朝・隋・唐・宋・元・明・清など、時代を縦割りにして中国芸術史の継続性を究め、さらにそれぞれの時代を横割りにしてアジア諸地域の文化との交流という広範な視野からも中国芸術の全貌を眺めてみたい。各時代の特色や代表的な作家について述べながら、中国絵画における線描や皴法の特徴、山水画の起源、書画同源の問題、さらに謝赫の六法論、写実と写意の概念、董其昌の南北画論などの理論についても論じてみたい。

【授業計画】

1. 芸術創造の基盤条件としての中国の自然と生活、社会
2. 先史時代の遺跡と出土した芸術品
3. 殷・周時代の文化と芸術
4. 戦国時代の混乱と芸術の衰退
5. 秦・漢時代、中華文明の形成と遊牧国家の成立が芸術に与えた影響
6. 南北朝時代の文化と芸術
7. 隋・唐・宋時代の文化と芸術、東アジア世界の形成と日本文化への影響
8. 元時代の書画
9. 明時代の文化と書画
10. 清時代、西洋列強の進出と伝統文化の対立

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。

科 目 名			
同和教育論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	黒 田 伊 彦

【講義概要・学習目標】

2005年から、中学校、高校での国連の「人権教育のための世界プログラム」が始まった。人権教育の広がりや深まりを支える同和教育のあり方が問われている。

春期は、部落への差別・偏見の由来や部落差別の現実、部落差別が今も続いている要因、部落の起源や部落差別との闘いの歴史から、部落へのマイナスイメージをプラスイメージに転換していく事実と教材化の視点を明らかにする。

秋期は、同和教育の歩みから、融和教育、同和教育、解放教育の違い。「いじめ」を克服する同和（解放）教育のあり方、部落悲惨史論を克服する教材研究を行い、同和（解放）教育から人権教育への方向性を明らかにする。

教科書、補充プリント、VTR等の映像資料を用いる。

春期は「解体新書に関する教科書批判」と「島崎藤村の『破戒』の課題研究と読書感想文、原作と映画の違いについて」のレポートを課す。

秋期は、「全国水平社の天皇制との闘いと限界」、「いじめ」を克服する教師のあり方として、落合恵子の「わたし自身への私信ーいま大人への『育自』のときー」の感想文のレポートを課す。

【授業計画】

- (春 期)
1. 同和教育とは何かー映画「夜明けをめぐして」
 2. 部落差別を支えるケガレ意識の由来と日常性
 3. 気づいていない部落差別ー「けじめ」「ヤブ医者」など
 4. 部落差別の現実（Ⅰ）映画「明子の愛そして」
 5. (Ⅱ) 部落地名総鑑事件他
 6. 部落の起源（Ⅰ）近世封建社会の成立と「かわた」
 7. (Ⅱ) 一向一揆と被差別部落
 8. 部落差別との闘い（Ⅰ）汚染一揆・映画「触れ書き一揆」
 9. 汚染一揆の教材化・劇他
 10. (Ⅱ) 解放令と身分差別の再編成
 11. (Ⅲ) 映画「破戒」(119分) 前半
 12. 映画「破戒」の後半
 13. スライド「破戒の風土ー藤村と部落問題」他
 14. テスト
- (秋 期)
15. (Ⅳ) 西光弓吉と全国水平社・映画「よき日のために」
 16. (Ⅴ) スライド「神武天皇陵と洞部落の強制移転」他
 17. (Ⅵ) 映画「夜明けの旗」松本治一郎伝（前半）
 18. (109分) 後半・福岡連隊差別糾弾闘争
 19. (Ⅶ) 全国水平社と戦争ー西光万吉の天皇主義他
 20. 部落解放の方策と「ねた子を起すな論」批判
 21. 戦前の融和教育ー伊東茂光と崇仁教育、同和の語源
 22. 戦後の同和（解放）教育の歩み（Ⅰ）
 23. (Ⅱ) 同和教育から人権教育へ
 24. 部落問題学習の基本視点ーVTR「天気になあれ」
 25. 「いじめ」を克服する同和教育ーいじめの原因と教師像
 26. 差別と偏見ーVTR「青い目、茶色い目」
 27. 差別と差別意識の働きー差別の共通性
 28. テスト

【成績評価の方法】

春期・秋期毎にテストと課題レポートと出席点で評価する。出席を重んじる。

【テキスト】

黒田伊彦編著『部落問題・人権・同和教育教材集』つげ書房新社

【参考文献】

黒田伊彦著『部落史紀行』つげ書房新社
上杉聰著『私のダイガク講座 これぞわかった部落の歴史』解放出版社
中野陸夫・池田寛・中尾健次・森実著『人権教育をひらく 同和教育への招待』解放出版社

科 目 名			
同和教育論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	寺 木 伸 明

【講義概要・学習目標】

本講義では、まず同和教育とはどのような教育をいうのかを説明し、そしてそもそも同和教育は必要なのか、ということについて共に考えてみたい。次に、現在、部落の子供たちをとりまく、生々しい差別の実状について、ビデオなどを見ながら理解を深めていきたい。そうした現実を踏まえて、現在、小学校・中学校・高校でどのような同和教育、人権教育の実践が行われているのかを説明する。その際、中学校と高校の先生にゲスト講師としてきていただき、教育現場での取り組みの現状を具体的に報告していただく予定である。つづいて、同和教育の歴史、部落問題学習・人権問題学習の実際の進め方などについて、最近の研究成果を踏まえて講義する。授業の形態としては、できるだけ参加型学習を取り入れ、双方向的な授業にしたい。

【授業計画】

- 1 同和教育とは何か
- 2 同和教育は必要か
- 3 被差別部落の子供をとりまく差別の現状
- 4 中学校における同和教育の実践（ゲスト講師予定）
- 5 高校における同和教育の実践（ゲスト講師予定）
- 6 同和教育の歴史
- 7 部落問題学習指導の実践
- 8 同和教育の成果と課題

なお、私語は厳禁。私語した場合は、直ちに退室を命じる。また、15分たつてからの入室と途中退室は、正当な理由がないかぎり認めない。

【成績評価の方法】

前期のレポートおよび学年末の試験の成績を基本にして出席点（毎回、出席カードに簡単な感想・意見・疑問等を書いてもらう）を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

中野陸夫・池田寛・中尾健次・森実『同和教育への招待』 解放出版社
講義中に、絶えず参照するので、必携のこと。

【参考文献】

稲垣有一・寺木伸明・中尾健次『部落史をどう教えるか』 解放出版社
寺木伸明・野口道彦編『部落問題論への招待 資料と解説』 解放出版社

科 目 名			
特別活動論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	橋 野 蔵

【講義概要・学習目標】

大きな期待と希望の中で21世紀が華々しく幕開いたが、現実には国内外共に厳しい人為的・自然的環境に直面している。とりわけ我国においては、なお一層進む犯罪の低年齢化と凶悪化、また子ども達にとって社会性の育ちにくい昨今の環境の中で、規範意識やモラルの低下など、憂慮される課題が重くのしかかっている。これらの改善の一端が教育に託され、期待されるところが益々大きくなっている。課題解決の糸口として、特別活動の授業においても何か接点はないものか探してみたい。

学習指導要領は、①集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。②集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を育てる。③人間としての自覚を深める。――の目標を掲げている。この目標を具現化し実践していくためには、教師自身が目標の諸能力を幅広く身につける必要がある。授業を単に受け身で学習するのではなく、地域の教育施設などに赴き、地域と連携した実践活動の中で体験活動をすすめるなど、生きた学習を展開したい。

“目的があり、夢がある時人は輝いている”と言われるが、目標に向かって自主的・自発的な学習姿勢を望みます。

【授業計画】

1. オリエンテーション
 - ・学習計画、グループ編成など
2. 学習指導要領による「特活」の位置づけ
3. 学校現場における「特活」の実践
 - ・学級活動 ・生徒会活動 ・学校行事
4. 今日の課題と特活
 - ・不登校 ・学級崩壊 ・校内暴力他
5. 現地体験学習
 - ・幼稚園、小・中学校との交流・体験学習
6. 班別プレゼンテーション、評価・まとめ
7. テスト

【成績評価の方法】

出席状況、VS活動や発表、授業内での発表、期末レポートの結果など総合して行う。但し、2／3以上の出席がない時は評価しない。

【テキスト】

プリントなどにより、必要に応じて配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

科 目 名			
特別活動論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	宮 本 進

【講義概要・学習目標】

21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。また、幾つかの地域では紛争中であり日本もそれに無関係ではいられない。さらに少子化、核家族化が進むなかで、集団活動や人間関係をつくることが不得意な生徒が増加していると言われる。これが生徒達の問題状況を生む背景ともなっている。特別活動は教科指導とともに教育課程に位置づけられている。その内容としてはホームルーム活動（中学校では学級活動）・生徒会活動・学校行事から構成される。目的は「集団や社会の一員としての態度を養うとともに、自己を生かす能力を養うこと」とされる。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、それぞれの内容について具体的な諸実践を考察し、特別活動のあり方を研究する。討論等を取り入れた参加型の授業にしたい。

【授業計画】

- ・はじめに一講義計画など
- ・戦前の特別活動
- ・指導要領における特別活動の目標と内容
- ・学級（ホームルーム）活動の実際とその基本的視点
- ・生徒会活動の実際とその基本的視点
- ・学校行事の実際とその基本的視点
- ・必修クラブの廃止と部活動の意義
- ・ボランティア活動の意味と意義
- ・まとめとテスト

【成績評価の方法】

出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2／3以上の出席がない場合は評価しない。

【テキスト】

授業ノート・資料などをプリントして配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する

科 目 名			
都市社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

現代社会において都市は、たえず新しい社会関係・集団や文化を生成する場となっている。よくある「都市化が人間関係を破壊する」といったたぐいのステレオタイプな見方だけでは、現代都市において実際に成立している社会構造や、そこで作動している社会的なメカニズムをとらえることは困難であるといつてよい。

都市社会学は、社会学の一分野として20世紀はじめのアメリカ合衆国において誕生した学問であり、その初期の言説は上のようなステレオタイプのまさに源泉となっているが、近年にいたって、パラダイムの根本的な問い直しが行なわれていることもまた事実である。

この授業では、以上をふまえ、都市社会学の基礎理論とその批判的継承の流れを学び、さらにその現代日本の都市への応用について考えることをめざしたい。

【授業計画】

- I 社会現象としての「都市」
 1. 世界の都市、日本の都市
 2. 歴史のなかの都市
- II 都市社会学の基礎理論
 3. シカゴ学派と「人間生態学」
 4. 生活様式としてのアーバンイズム
 5. アーバンイズムの下位文化理論
 6. マルクス派の「新」都市社会学
 7. 日本における都市社会学研究
- III 現代都市の社会構造
 8. 都心とインナーエリア
 9. 郊外社会とサバーバンイズム
 10. ニュータウンの現在
 11. グローバル化と現代都市
 12. 都市の社会的不平等
- IV コミュニティの形成と展開
 13. 都会人のパーソナリティ
 14. 町内会と都市の地域集団
 15. コミュニティ政策と地域社会

※それぞれにつき1～3回程度の講義を予定。また随時、そのときどきのニュースなども取り入れていくので、この計画はあくまでも大枠の目安と考えてもらいたい。

【成績評価の方法】

小テスト・小レポート（複数回、予告なし）6割、期末試験4割。

【テキスト】

高橋勇悦監修、菊池美代志・江上渉編『21世紀の都市社会学』（学文社、2415円）

【参考文献】

- C・S・フィッシャー『都市的体験』（未来社）
 - 松本康編『増殖するネットワーク』（ミネルヴァ書房）
 - 町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』（有斐閣）
 - 園部雅久・和田清美編『都市社会学入門』（文化書房博文社）
- ほか、授業時に指示する。

科 目 名			
都市政策論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	松 本 誠

【講義概要・学習目標】

「都市の爆発と再生～都市づくりの担い手と分権・自治の仕組み」

戦後日本の都市政策は、急激な都市への人口集中と都市構造の過密・高度化によって、国土の均衡を崩し、農山村の破壊をもたらした。都市の暮らしの環境悪化をもたらしてきた。それはまた、ハード面でもソフト面でも災害に弱い都市の構造をつくりだしてきた。

このような都市の“爆発”のなかで、住民・市民と自治体は、どのような政策を展開してきたのか。都市の再生へ、どのような対応をしてきたのか。

今日直面している分権型都市のあり方を踏まえて、21世紀の都市と自治体のあり方を展望しながら、新しい都市政策を考える。同時に、住民・市民が新しい都市づくりに、どのように主体的な役割を果たすべきかについても、実践的な課題を探りたい。

【授業計画】

以下の項目について、講義を中心に状況認識と課題を把握することに努める。

1. 都市公害と住民運動
2. 革新自治体と都市政策
3. 中山間地域の崩壊と“まちおこし”ブームの意味
4. 戦後の市民・住民運動の系譜と展開
5. 住民主体のまちづくりの試行
6. 地方分権と住民自治
7. 阪神・淡路大震災とサステイナブル・コミュニティー
8. 参画・協働と新しい地方自治の模索

【成績評価の方法】

期末にレポートの提出を求めるほか、期中にも適宜アンケートやレポート等によって評価を補足する。

【テキスト】

とくに指定しない。

【参考文献】

その都度、指示する。

科 目 名			
図書及び図書館の歴史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	上 田 格

【講義概要・学習目標】

紙が発明される以前にも図書は存在した。また、今日では紙を使わない図書も出現し始めている。図書とは何か。「図書の歴史」では その材質、形態、印刷の変遷をたどる。

次に、古代から現代にいたる図書館の歩みを概観し、歴史上の記録や、人類の生み出した知識、思想、芸術などへのアクセスが、一部特権階級の独占状態から、一般民衆に開放されていく過程を図書館の思想、制度の両面から追っていく。

【授業計画】

1. 記録の誕生と図書の歴史
2. 印刷の歴史
3. 非図書の出現と電子図書の登場
4. 古代の図書館
5. 中世の図書館
6. 近世の図書館
7. 近代図書館の先駆け
8. 近代公共図書館の誕生
9. 公共図書館理念の実現を目指して
10. 日本の近代図書館の歴史（1）
11. 日本の近代図書館の歴史（2）

【成績評価の方法】

期末試験（筆記）の成績で評価する。出席状況は加味。

【テキスト】

毎回 プリントを配布。

【参考文献】

『図書館の話』森 耕一著 至誠堂

『近代図書館の歩み』森 耕一著 至誠堂

『図書館の歴史 アメリカ編』増訂版 川崎良孝著 日本図書館協会

科 目 名			
図書館経営論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】
 図書館の経営について学ぶ。図書館の経営とはどういうことであろうか。
 それぞれの図書館は、他の図書館と比べると何らかの違いを有する。資料に着目した場合、蔵書量の豊かな図書館があり、あるいは幅広く雑誌・新聞を集めている図書館場ある。図書館活動に着目すると、資料貸出し量重点の図書館が多いが、他方にレファレンス、集会など施設を拠点として活動する図書館がある。施設面に着目すると、大きな本館を築き活動する図書館がある一方、分館の設置や移動図書館に力を入れる図書館がある。専門の司書をそろえた図書館がある一方、人材派遣に頼る図書館もある。それらは公共図書館を土台にした例であるが、大学、学校図書館の事情は随分ことなる。また多様である。
 このような、図書館ごとの特徴は多分に伝統など過去に起因している。だがそれならば、近未来の各種図書館像の如何は現在の図書館経営者の策・実行にかかるという事になる。各館はサービス計画を立て、実行に移す。その間は経費（人手、資料等）の予算が必要となる。最後に活動の効果測定、計画の評価をし、次の施策に入る。図書館経営論ではこうしたことについて考える。

【授業計画】
 1 「図書館経営論」ガイダンス（講義計画説明）
 2 「図書館経営論」の位置付け（図書館法施行規則における）
 3 「図書館経営」の意味、意義・必要性
 4 図書館経営の沿革
 5 図書館経営の原則
 6 第1次経営と第2次経営
 7 図書館サービス計画と経営計画
 8 図書館の経営管理組織
 9 館種別考察
 10 図書館経営の諸形態；NPO、PFIなどと委託
 11 図書館活動及び図書館経営の評価
 12 パフォーマンス指数
 13 図書館経営のファースリーディング
 14 まとめ
 15 テスト

【成績評価の方法】
 テスト 70%
 課題 20%
 その他 10%

【テキスト】
 高山正也[ほか]『図書館経営論』改訂 樹村房 2004 ￥2000

【参考文献】
 図書館の指定図書コーナーを見てください。

科 目 名			
図書館サービス論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	8月集中	2単位	山 本 順 一

【講義概要・学習目標】
 デジタル・ネットワーク時代の‘ハイブリッド・ライブラリー’と呼ばれる図書館と図書館サービスについて一緒に考えることにしたい。伝統的な紙媒体資料を主体とする図書館の図書館サービスは、資料選択、分類・目録などのテクニカル・サービスを基礎として、閲覧（視聴を含む）、貸出、レファレンスサービスや図書館イベント、PRなどのパブリック・サービスを展開してきた。現在では、資料提供というよりもインターネット情報資源をも対象とする‘情報へのアクセス’の提供を図書館サービスの中核としている。サイバースペースにおける‘図書館ポータル’の構築が急務となっている。‘新たな図書館サービス’イメージの獲得がこの科目の目的である。

【授業計画】
 1) はじめに
 2) 図書館の役割と目的
 3) 地域社会と図書館
 4) 図書館と法制度
 5) 図書館と財政
 6) ‘図書館利用者’概念の検討
 7) 各利用者層に対する図書館サービス
 8) 図書館ネットワーク
 9) 図書館の環境整備
 10) 資料コレクションの構築
 11) 図書館とデジタル・コンテンツ
 12) 図書館サービスを支える人的資源
 13) 図書館と情報ポリシー
 14) 図書館の管理運営とマーケティング
 15) むすび

【成績評価の方法】
 ペーパーテストの結果を重視するが、受講時のレスポンスを考慮する。

【テキスト】
 国際図書館連盟公共図書館分科会ワーキング・グループ編『理想の公共図書館サービスのために』日本図書館協会、2003

【参考文献】
 講義のときに随時紹介する。

科 目 名			
図書館資料論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	谷 本 達 哉

【講義概要・学習目標】

「図書館にある資料といえば、それは“本（図書）”・・・？」これは多くの人が抱くごく自然なイメージでしょう。しかし、実際の図書館には、“本（図書）”以外にも、様々なタイプの資料やメディアが揃っています。この科目では、図書館にある資料・メディアについて、その種類と特徴、活用方法、コレクションの構成などを学び、情報センターとしての図書館とその資料・メディアを利用した情報へのアクセスについて考えます。

【授業計画】

図書館における資料・メディアについて、次のようなテーマを中心に概説します。

- ・資料・メディア論入門
- ・図書館の資料・メディア
- ・蔵書の構成
- ・資料・メディアの歴史
- ・資料・メディアと出版流通
- ・資料・メディアと「図書館の自由」

【成績評価の方法】

期末試験および授業中の課題、出席や受講態度を重視します。また、資格課程科目ですから、授業への出席は勿論、履修にあたって積極的に熱心な姿勢を求めます。

【テキスト】

志保田務・山本順一監修『資料・メディア総論』学芸図書, 2001

【参考文献】

適宜、講義の中で紹介します。

科 目 名			
図書館通論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

図書館、図書館情報学のおおよそについて平概説する。まず、図書館は何をすることかを把握し、その果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）、入館者→利用者→ステークホルダーの4点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに焦点をおく。そこでは図書館サービスが追求の対象となる。各種の館種のうちここでは公共図書館を中心に論じる。また、「図書館の自由」や図書館経営、図書館の情報化、図書館世界に将来等について検討する。

【授業計画】

- 1 図書館とはなにか
- 2 図書館の果たす役割
- 3 情報の伝達と図書館
- 4 社会、生涯学習と図書館
- 5 図書館の構成要素
- 6 図書館の種類（館種）
- 7 公共図書館：概念
- 8 公共図書館の歴史と現代
- 9 公共図書館の利用者
- 10 図書館の自由
- 11 図書館経営
- 12 図書館と情報化
- 13 テスト

【成績評価の方法】

期末テスト 80%

その他 20%

【テキスト】

『図書館概論』改訂版 志保田務[ほか]著 樹村房 2005 1800円

【参考文献】

本学図書館指定図書コーナーあり。

科 目 名			
図書館特論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

現代図書館の諸問題について考察する。問題点の大枠は、図書館情報学の基礎、その情報化、国際化ということである。特に、「情報」に重点をおく。そうしたなかで、サーチャーに光をあてたい。

【授業計画】

インテグレーション授業。計画は仮案であり、少々変更見込み。コンピュータ実習室をおおむね使用する。

- 1 図書館情報学の課題
- 2 図書館と図書館情報学
- 3 図書館と情報技術
- 4 図書館と資料・情報
- 5 図書館利用教育
- 6 図書館施設
- 7 図書館とOPAC
- 8 図書館と情報検索
- 9 図書館とインターネット
- 10 インターネットと英語
- 11 図書館とデータベース利用
- 12 図書館とネットワーク
- 13 図書館と著作権
- 14 図書館情報学の将来
- 15 テスト

【成績評価の方法】

期末テスト 60%
課題 30%
出席 10%

【テキスト】

特に指定はしない。プリントその他による。

【参考文献】

図書館の指定図書コーナーを見てください。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
日本近代史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	佐 賀 朝

【講義概要・学習目標】

本講義では、「近代大阪の都市社会史」というテーマのもと、近代の巨大都市である大阪を対象に、その社会構造の分析を試みる。特に、(1)都市住民の生活実態やそこで取り結ばれる多様な社会関係を具体的に明らかにすること、(2)巨大都市をノッペラボーなものとして捉えるのではなく、その構成要素であるさまざまな地域社会の特色や個性に注目すること、(3)フィールドワークや聞き取りも含めたさまざまな史料を多面的に活用し分析すること、などを重視したい。

まず前半では、明治期の都市内の地域社会として、遊廓、貧民窟と盛り場、工場地域などを取り上げて、その社会構造を分析していく。後半では、大正～昭和戦前期の都市社会について、第一次大戦期の経済発展や米騒動・住宅問題などの都市社会問題、都市計画や都市社会政策の登場、戦時体制下の市民生活や大阪大空襲などを取り上げ、概説的に論じていく。

また、大阪の歴史に関する博物館の見学にもとづいてレポートを書いてもらうことも予定している。

全体を通して、人間が生活・労働をいとなみ、文化が創造される場である地域社会の構造とその変化を的確に捉える方法を学び、現代の地域社会が抱える課題に向き合うための基本的な視点を獲得することを目指す。

【授業計画】

おおむね以下のようなテーマを論じる予定。

明治期大阪の都市内地域
遊廓と地域社会 ―松嶋遊廓の成立―
長町と千日前 ―貧民移転問題を素材に―
工場と地域社会 ―造幣局を素材に―
第一次大戦期の経済発展と都市問題
米騒動と階級的な社会運動の展開
都市政策の誕生と展開
「大大阪」 ―モダン都市大阪の成立―
戦時体制下の大阪市民
大阪大空襲 ほか

【成績評価の方法】

出席・受講態度、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

随時、プリント等を配付する。

【参考文献】

小山仁示・芝村篤樹『大阪府の百年』（山川出版社、1991年）
原田敬一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1998年）
広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年）
芝村篤樹『日本近代都市の成立―1920・30年代の大阪―』（松籟社、1998年）
以上のほか、授業のなかで随時、提示する。

科 目 名			
日本経営論研究			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	正 亀 芳 造

【講義概要・学習目標】

1980年代まで優れたパフォーマンスで国際的に脚光を浴びた「日本的経営」諸慣行の多くは、国内では90年代以降のグローバル化の急速な進展と長期構造不況の中でかつての輝きを失ってしまった。またそれに伴い日本企業はグローバル化への戦略的対応を迫られ、経営の本格的な多国籍展開を図っており、この傾向は奔流のような勢いで強まっている。

本研究では、このような大きな状況変化を踏まえて、グローバル化を視座に据えて、日本企業は経営管理の主要な各側面でのどのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているか等の観点から、各テーマについて本研究科教員による基調講義の後、経営の多国籍展開を積極的に行っている先進企業の第一線で活躍中の実務家・その経験者による事例研究を大幅に採り入れ、理論と実践の両面から迫っている。

【授業計画】

＜前期＞オリエンテーション ＜後期＞生産戦略
 経営戦略 マーケティング戦略
 異文化経営戦略 原価管理戦略
 財務戦略 情報戦略
 資材調達戦略 競合国企業の経営戦略
 （以上の計画は多少変更する場合がある）

【成績評価の方法】

レポート内容、発言状況、出席状況等を総合的に勘案して評価する。
 レポート提出は前期末と後期末に各1回計2回。

【テキスト】

必要に応じ各講師が指示

【参考文献】

必要に応じ各講師が指示

【備考】

インテグレーション科目
 03B生対象

科 目 名			
日本経済史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	山 田 雄 久

【講義概要・学習目標】

徳川期以降の市場経済を分析することにより、日本経済の成長史について講義する。大坂を中心とする問屋制の成立から、大正期以降の本格的工業化までの時代を取り上げる。とりわけ近代経済システムを特徴づける商品・金融市場や資本・労働市場の発達について詳しく論じる。また、企業や財界の動きを分析するためには、経営史的観点を取り入れることが有効であり、これらの成果についても適宜ふれる予定である。

【授業計画】

1. 幕藩体制下の経済システム
2. 近世経済社会のダイナミズム
3. プロト工業化の時代
4. 明治政府の財政金融政策
5. 近代産業の成立と工業化
6. 輸出主導型経済の発展

【成績評価の方法】

講義中にレポートの提出をお願いする。
 学年末試験の成績と総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

西川俊作『日本経済の成長史』（東洋経済新報社）
 新保博『近代日本経済史』（創文社）
 橋本寿朗『近代日本経済史』（岩波書店）
 経営史学会『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）

【備考】

＜02～06生＞
 共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
日本経済史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	梅 本 哲 世

【講義概要・学習目標】

グローバル化が急速に進展するなかで、いま世界経済・日本経済は大きな転換点にある。このような時期であるからこそ、過去を振り返ってそこから学び、現在を批判的に見つつ未来を展望する作業が必要不可欠になるだろう。この講義では、幕末から第2次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第1に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第2に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。

歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。

【授業計画】

1. 経済史の基本概念
2. 幕末の経済と開港
3. 明治維新
4. 殖産興業と松方財政
5. 近代産業の発達－軽工業
6. 近代産業の発達－重工業
7. 日清・日露戦争と日本経済
8. 第1次世界大戦と日本経済
9. 1920年代
10. 昭和恐慌
11. 高橋財政
12. 戦時経済

【成績評価の方法】

学期末試験の成績により評価する。
講義の区切りに感想を書いてもらい、授業改善と成績評価の参考とする。

【テキスト】

大石嘉一郎『日本資本主義百年の歩み』（東京大学出版会）

【参考文献】

三和良一『概説日本経済史 近現代〔第2版〕』（東京大学出版会）
石井寛治『日本経済史〔第2版〕』（東京大学出版会）
安藤良雄編『近代日本経済史要覧』（東京大学出版会）

【備考】

<02～06生>
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

科 目 名			
日本経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	一ノ瀬 篤

【講義概要・学習目標】

日本経済の現状と特徴を知る、ということが講義の内容であり、学習の目標である。広い範囲について言及するので、細部の話は避けて、「要するに」という観点から、現状を示す数値の紹介に力を入れる。この講義を通じて、基本経済用語を理解して頂きたい。また、GDP、税収、国際収支などについての基本数値、石油危機等々の重要事件は何年の出来事なのか、など、日本経済についての常識を身につけて欲しい。

「1週間（回数2回）で1章ずつ」というペースで講義を進める。ただし、序章と第1章は一括りにして、1週間で終える。

【授業計画】

- (序)
- (1) 日本の経済力は世界の中でどの程度なのか？
 - (2) 日本の経済力はいつ頃から強くなったのか？
 - (3) 製造業の現状はどうなのか？
 - (4) 流通業（商業）の現状はどうなのか？
 - (5) 日本企業の特徴
 - (6) 日本人の所得と消費・貯蓄
- 中間試験
- (7) 国際取引と国際収支の現状①貿易取引・サービス取引
 - (8) 国際取引と国際収支の現状②金融取引
 - (9) 銀行、信用金庫、信用組合、日本銀行は何をしているのか？
 - (10) 株式取引や株式取引所は何のためにあるのか？
 - (11) 税金と国債（国の借金）の現状
 - (12) 日本の為替相場の推移

【成績評価の方法】

中間試験と期末試験の双方を均分に評価。また、折々小テストを行い、この結果を適宜、加味する。中間試験を受験できない場合は、予め届け出のないかぎり、期末試験の受験が出来ないので注意。

【参考文献】

教科書は特に用いない。講義レジメを毎回、配布する。しかし、日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』を座右に置いて常時参照するよう、勧めたい。

な
行

科 目 名			
日本語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	藤 原 健

【講義概要・学習目標】

大学に入って、これから学部の留学生として生活していくことになるわけだが、何かにつけていやでも日本語の実力不足を痛感していくのではないだろうか。

日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、大学生活に慣れたり、専門の科目の勉強などに忙しかったりで、日本語そのものの勉強まで手が回らなくなるのではないかと思う。さらに、今までの初級や中級の「日本語の教科書」に出てきた日本語と、大学の授業で使われる日本語の語彙や文体の差に驚くことになると思う。

この授業では、『はじめての専門書』（凡人社）というテキストを使って、学部の講義で用いられるテキストの文体に慣れるため、心理学・数学・衛生学・生物学などの専門書のばっすいを丁寧に読み進め、内容の把握に努める。また、助詞相当語の意味・用法の確認も併せて行う。

特に予習は要らないが、復習はしっかりしてほしい。

【授業計画】

＜読解（精読）練習＞

- (1) 各専門分野の文章を読む。
 - ・語彙や文型を考える。
 - ・内容の把握をする。
 - ・シートの設問に答える。
- (2) 助詞相当語の意味と用法を確認する。
- (3) 課によっては要約をする。

【成績評価の方法】

評価は進度に応じて年に数回の平常試験で行う。

ただし、試験を受けるための条件として、その試験までの授業回数の3分の2以上を必要とする。

また、「授業中の携帯電話（見る、音が鳴る）」、「授業中の私語」、「忘れ物」は、大きく減点する。

詳しくは、授業初回に説明する。

【テキスト】

（コピーを配布する。）

【参考文献】

山本一枝・田山のり子・坂本恵（共著）『はじめての専門書』（凡人社）

科 目 名			
日本語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	串 田 真知子

【講義概要・学習目標】

大学生活で必要とされる日本語能力のうち「話す」「書く」ことを中心に、日本語で考え、その考えを日本語で「話す」「書く」ことにより表現することを学習の目的としている。具体的な学習内容としては、「書く」学習では、レポートなどの文章を書くために必要な表現・文法・文構成や日本語作文の基礎的知識を学び、「話す」学習では、スピーチ・ディスカッションなどを通して自分の考えを伝えるために必要な表現や質疑応答の方法について学ぶ。

【授業計画】

- ① 講義ノートの作成方法
 - ② 日本語作文の基礎的知識
 - ③ スピーチの表現技術
 - ④ ディスカッションと表現方法
 - ⑤ レポートの語彙・文型・表現の学習
 - ⑥ 図表の提示・引用・要約の方法
- 毎回、課題を課し、語彙テストも行う。

【成績評価の方法】

試験50%、出席20%、提出物20%、語彙テスト10%で総合評価する。

【テキスト】

『留学生のための論理的な文章の書き方（改訂版）』二通信子・佐藤不二子著 スリーエーネットワーク

【参考文献】

『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』佐々木瑞枝他 ジャパンタイムズ

『日本語の表現技術 読解と作文（上級）』倉八順子著 古今書店

『よく使うカタカナ語』小田知子 アルク